HA8000シリーズ

リモートコンソールオプション
取扱説明書

（Java アプリケーション）

形名：VSS7BR20

マニュアルはよく読み、保管してください。

製品を使用する前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。
このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

VSS7BR20

ソフトウェア使用上の注意

お客様各位

株式会社 日立製作所

このたびは日立アドバンストサーバをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
下記の「ソフトウェアの使用条件」を必ずお読みいただきご了解いただきますようお願いいたします。

ソフトウェアの使用条件

１．ソフトウェアの使用

このソフトウェアは、特定の１台の日立アドバンストサーバシステムでのみ使用することができます。

２．複製

お客様は、このソフトウェアの一部または全部の複製を行わないでください。ただし、下記に該当する場合に限り複製することができます。

お客様がご自身のバックアップ用、保守用として、１項に定める１台の日立アドバンストサーバシステムで使用する場合に限り複製することができます。

３．改造・変更

お客様によるこのソフトウェアの改造・変更は行わないでください。万一、お客様によりこのソフトウェアの改造・変更が行われた場合、弊社は該当ソフトウェアについてのいかなる責任も負いません。

４．第三者の使用

このソフトウェアを譲渡、貸出、移転その他の方法で、第三者に使用させないでください。

５．保証の範囲

（１）　万一、媒体不良のために、ご購入時に正常に機能しない場合には、無償で交換いたします。

（２）　このソフトウェアの使用により、万一お客様に損害が生じたとしても、弊社は責任を負いません。あらかじめご了承ください。

以上

重要なお知らせ

■本書の内容の一部、または全部を無断で転載、複写することは固くお断りします。
■本書の内容について、改良のため予告なしに変更することがあります。
■本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなど、
お気付きのことがありましたらお買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
■本書に準じないで本製品を運用した結果については責任を負いかねますので、
あらかじめご了承ください。

規制・対策などについて

❑ 輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明の場合は弊社担当営業にお問い合わせください。
なお、本製品に付属する周辺機器やプレインストールされているソフトウェアも同じ扱いになります。

登録商標・商標について

Microsoft, Windows, Windows Server, Hyper-V は米国 Microsoft Corp.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
Red Hat は、米国およびその他の国における Red Hat,Inc.の登録商標または商標です。
VMware、VMware vShere、ESX、ESXi は VMware,Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
ORACLE、Java は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。

版権について

このマニュアルの内容はすべて著作権に保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

はじめに

このたびは日立のシステム装置をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
このマニュアルは、システム装置に搭載されたリモートコンソールを使用する為のリモートコンソールアプリケーションに関する使用方法、取り扱いの注意などについて記載しています。

マニュアルの表記

❑ マークについて

マニュアル内で使用しているマークの意味は次のとおりです。

マーク	意味
⚠警告	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
⚠注意	これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
通知	これは、人身傷害とは関係のない損害を引き起こすおそれのある場合に用います。
制限	本製品の故障や障害の発生を防止し、正常に動作させるための事項を示します。
補足	本製品を活用するためのアドバイスを示します。

❑ オペレーティングシステム（OS）の略称について

本マニュアルでは、次の OS 名称を省略して表記します。

Microsoft· Windows Server· 2012 Standard 日本語版
（以下 Windows Server 2012 Standard または Windows Server 2012、Windows）
Microsoft· Windows Server· 2012 Datacenter 日本語版
（以下 Windows Server 2012 Datacenter または Windows Server 2012、Windows）
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard 日本語版
（以下 Windows Server 2008 R2 Standard または Windows Server 2008 R2、Windows）
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise 日本語版
（以下 Windows Server 2008 R2 Enterprise または Windows Server 2008 R2、Windows）
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter 日本語版
（以下 Windows Server 2008 R2 Datacenter または Windows Server 2008 R2、Windows）
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Foundation 日本語版
（以下 Windows Server 2008 R2 Foundation または Windows Server 2008 R2、Windows）
Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 日本語版
（以下 Windows Server 2008 Standard または Windows Server 2008、Windows）
Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 日本語版
（以下 Windows Server 2008 Enterprise または Windows Server 2008、Windows）
Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 日本語版
（以下 Windows Server 2008 Datacenter または Windows Server 2008、Windows）
Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition 日本語版
（以下 Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition または
Windows Server 2003 R2 x64 Editions、Windows Server 2003 R2）
Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition 日本語版
（以下 Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition または
Windows Server 2003 R2 x64 Editions、Windows Server 2003 R2）
Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard Edition 日本語版
（以下 Windows Server 2003 R2, Standard Edition または
Windows Server 2003 R2（32 ビット）、Windows Server 2003 R2）
Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition 日本語版
（以下 Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition または
Windows Server 2003 R2（32 ビット）、Windows Server 2003 R2）
Microsoft®Windows Server® 2003, Standard x64 Edition 日本語版
（以下 Windows Server 2003, Standard x64 Edition または
Windows Server 2003 x64 Editions、Windows Server 2003、Windows）
Microsoft®Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition 日本語版
（以下 Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition または
Windows Server 2003 x64 Editions、Windows Server 2003、Windows）
Microsoft®Windows Server® 2003, Standard Edition 日本語版
（以下 Windows Server 2003, Standard Edition または
Windows Server 2003（32 ビット）、Windows Server 2003、Windows）
Microsoft®Windows Server® 2003, Enterprise Edition 日本語版
（以下 Windows Server 2003, Enterprise Edition または
Windows Server 2003（32 ビット）、Windows Server 2003、Windows）
Microsoft® Windows® 7 Professional 日本語版
（以下 Windows 7 Professional または Windows 7、Windows）
Microsoft® Windows® Vista Business 日本語版
（以下 Windows Vista Business または Windows Vista、Windows）
Microsoft® Windows® XP Professional 日本語版
（以下 Windows XP Professional または Windows XP、Windows）
Microsoft® Windows® XP Professional x64 Edition 日本語版
（以下 Windows XP Professional x64 Edition または Windows XP、Windows）
Red Hat Enterprise Linux Server 6.2（64-bit x86_x64）
（以下 RHEL6.2（64-bit x86_x64）または RHEL6.2、RHEL6、Linux）
Red Hat Enterprise Linux Server 6.2（32-bit x86）
（以下 RHEL6.2（32-bit x86）または RHEL6.2、RHEL6、Linux）
Red Hat® Enterprise Linux® 5.7（AMD/Intel 64）
（以下 RHEL5.7（AMD/Intel 64）または RHEL5.7、RHEL5、Linux）
Red Hat® Enterprise Linux® 5.7（x86）
（以下 RHEL5.7（x86）または RHEL5.7、RHEL5、Linux）

VMware vSphere® ESXi™ 5.1
（以下 VMware vSphere ESXi 5.1 または VMware vSphere ESXi、VMware）
VMware vSphere® ESXi™ 5.0
（以下 VMware vSphere ESXi 5.0 または VMware vSphere ESXi、VMware）
VMware vSphere® ESX® 4.1
（以下 VMware vSphere ESX 4.1 または VMware vSphere ESX、VMware）
VMware vSphere® ESXi™ 4.1
（以下 VMware vSphere ESXi 4.1 または VMware vSphere ESXi、VMware）

なお次のとおり、省略した「OS 表記」は「対象 OS」中のすべてまたは一部を表すときに用います。

OS 表記	対象 OS
Windows Server 2012 *1	･Windows Server 2012 Standard *1 ･Windows Server 2012 Datacenter *1
Windows Server 2008 R2 *1	･Windows Server 2008 R2 Standard *1 ･Windows Server 2008 R2 Enterprise *1 ･Windows Server 2008 R2 Datacenter *1
Windows Server 2008 Standard *2	･Windows Server 2008 Standard *2 ･Windows Server 2008 Standard without Hyper-V *2
Windows Server 2008 Enterprise *2	･Windows Server 2008 Enterprise *2 ･Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V *2
Windows Server 2008 *2	･Windows Server 2008 Standard *2 ･Windows Server 2008 Enterprise *2 ･Windows Server 2008 Datacenter *2 ･Windows Server 2008 Standard without Hyper-V *2 ･Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V *2 ･Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V *2
Windows Server 2003 R2 (32ビット)	･Windows Server 2003 R2, Standard Edition ･Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition
Windows Server 2003 R2 x64	･Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition ･Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition
Windows Server 2003 R2	･Windows Server 2003 R2, Standard Edition ･Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition ･Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition ･Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition
Windows Server 2003 (32ビット)	･Windows Server 2003, Standard Edition ･Windows Server 2003, Enterprise Edition
Windows Server 2003 x64 Edition	･Windows Server 2003, Standard x64 Edition ･Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition
Windows Server 2003	･Windows Server 2003, Standard Edition ･Windows Server 2003, Enterprise Edition ･Windows Server 2003, Standard x64 Edition ･Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition
Windows 7	･Windows 7 Professional
Windows Vista	･Windows Vista Business
Windows XP	･Windows XP Professional ･Windows XP Professional x64 Edition
Windows	･Windows Server 2012 Standard *1 ･Windows Server 2012 Datacenter *1 ･Windows Server 2008 R2 Standard *1 ･Windows Server 2008 R2 Enterprise *1 ･Windows Server 2008 R2 Datacenter *1 ･Windows Server 2008 Standard *2 ･Windows Server 2008 Enterprise *2 ･Windows Server 2008 Datacenter *2 ･Windows Server 2008 Standard without Hyper-V *2 ･Windows Server 2008 Enterprise without Hyper-V *2 ･Windows Server 2008 Datacenter without Hyper-V *2 ･Windows Server 2003 R2, Standard Edition ･Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition ･Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition ･Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition ･Windows Server 2003, Standard Edition ･Windows Server 2003, Enterprise Edition ･Windows Server 2003, Standard x64 Edition ･Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition

*1　64bit版のみ提供されます。
*2　「OS 表記」および「対象OS」において、32bit 版のみを対象とする場合、名称末尾に“32bit版”を追記します。また、64bit版のみを対象とする場合、名称末尾に“64bit版”を追記します。

OS 表記	対象 OS
RHEL6.2	･RHEL6.2 (64-bit x86_x64) ･RHEL6.2 (32-bit x86)
RHEL6.1	･RHEL6.1 (64-bit x86_x64) ･RHEL6.1 (32-bit x86)
RHEL6	･RHEL6.2 (64-bit x86_x64) ･RHEL6.2 (32-bit x86) ･RHEL6.1 (64-bit x86_x64) ･RHEL6.1 (32-bit x86)
RHEL5.7	･RHEL5.7 (AMD/Intel 64) ･RHEL5.7 (x86)
RHEL5.6	･RHEL5.6 (AMD/Intel 64) ･RHEL5.6 (x86)
RHEL5	･RHEL5.7 (AMD/Intel 64) ･RHEL5.7 (x86) ･RHEL5.6 (AMD/Intel 64) ･RHEL5.6 (x86)
Linux	･RHEL6.2 (64-bit x86_x64) ･RHEL6.2 (32-bit x86) ･RHEL6.1 (64-bit x86_x64) ･RHEL6.1 (32-bit x86) ･RHEL5.7 (AMD/Intel 64) ･RHEL5.7 (x86) ･RHEL5.6 (AMD/Intel 64) ･RHEL5.6 (x86)
VMware ESX	･VMware ESX 4.1
VMware ESXi	･VMware ESXi 5.1 ･VMware ESXi 5.0 ･VMware ESXi 4.1
VMware	･VMware ESXi 5.1 ･VMware ESXi 5.0 ･VMware ESX 4.1 ･VMware ESXi 4.1

JP1/ServerConductorの略称について

本マニュアルでは、次のJP1/ServerConductor名称を省略して表記します。

JP1/ServerConductor/Advanced Agent

（以下　Advanced Agent）

お問い合わせ先

❑ 技術情報、アップデートプログラムについて

HA8000 ホームページで、技術情報、ドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェアなどのアップデートプログラムを提供しております。

■ホームページアドレス

http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/ha/index.html

［ダウンロード］タブをクリックした［ダウンロード］ページにある［ドライバ・ユーティリティ新着情報］および［ドライバ・ユーティリティの検索］をクリックしてください。
各アップデートプログラムはお客様責任にて実施していただきますが、システム装置を安全にご使用していただくためにも、定期的にホームページにアクセスして、最新のドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェアへ更新していただくことをお勧めいたします。
障害等の保守作業で部品を交換した場合、交換した部品の BIOS、ファームウェアは原則として最新のものが適用されます。また保守作業時、交換していない部品の BIOS、ファームウェアも最新のものへ更新する場合があります。
なお、お客様による BIOS、ファームウェアアップデート作業が困難な場合は、有償でアップデート作業を代行するサービスを提供いたします。詳細はお買い求め先にお問い合わせください。

❑ 操作や使いこなしについて

本製品のハードウェアについての技術的なお問い合わせは、HCA センタ（HITAC カスタマ・アンサ・センタ）でご回答いたしますので、次のフリーダイヤルにおかけください。受付担当がお問い合わせ内容を承り、専門エンジニアが折り返し電話でお答えするコールバック方式をとらせていただきます。

HCA センタ（HITAC カスタマ・アンサ・センタ）

0120-2580-91

受付時間
9:00～12:00/13:00～17:00（土・日・祝日、年末年始を除く）

お願い
■お問い合わせになる際に次の内容をメモし、お伝えください。お問い合わせ内容の確認をスムーズに行うため、ご協力をお願いいたします。
形名（TYPE）／インストール OS
「形名」は、システム装置後面のブラケットに貼り付けられている形名ラベルにてご確認ください。
■質問内容を FAX でお送りいただくこともありますので、ご協力をお願いいたします。
■HITACカスタマ・アンサ・センタでお答えできるのは、製品のハードウェアの機能や操作方法などです。ハードウェアに関する技術支援や、OSや各言語によるユーザープログラムの技術支援は除きます。
ハードウェアやOSの技術的なお問い合わせについては有償サポートサービスにて承ります。
→「技術支援サービスについて」P.10
■明らかにハードウェア障害と思われる場合は、販売会社または保守会社にご連絡ください。

❑ 欠品・初期不良・故障について

本製品の納入時の欠品や初期不良および修理に関するお問い合わせは日立コールセンタにご連絡ください。

日立コールセンタ

フリーコール 0120-921-789

受付時間：9:00～18:00（土・日・祝日、年末年始を除く）

お願い

■お電話の際には、製品同梱の保証書をご用意ください
■Web によるお問い合わせは次の URL へお願いします。

https://e-biz.hitachi.co.jp/cgi-shell/qa/rep_form.pl?TXT_MACTYPE=1

❑ 技術支援サービスについて

ハードウェアやソフトウェアの技術的なお問い合わせについては、「技術支援サービス」による有償サポートとなります。

総合サポートサービス［日立サポート 360］
ハードウェアと Windows や Linux など OS を一体化したサポートサービスをご提供いたします。詳細は次の URL で紹介しています。

■ホームページアドレス

http://www.hitachi.co.jp/soft/symphony/

インストールや運用時のお問い合わせや問題解決など、システムの円滑な運用のためにサービスのご契約をお勧めします。

HA8000 問題切分支援・情報提供サービス
ハードウェアとソフトウェアの問題切り分け支援により、システム管理者の負担を軽減します。
詳細は次の URL で紹介しています。

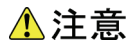
■ホームページアドレス

http://www.hitachi.co.jp/soft/HA8000/

運用時の問題解決をスムーズに行うためにサービスのご契約をお勧めします。
なお、本サービスには OS の技術支援サービスは含まれません。OS の技術支援サービスを必要とされる場合は「日立サポート 360」のご契約をお勧めします。

安全にお使いいただくために

安全に関する注意事項は、下に示す見出しによって表示されます。これは安全警告記号と「警告」、「注意」および「通知」という見出し語を組み合わせたものです。

	これは、安全警告記号です。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するために、このシンボルのあとに続く安全に関するメッセージに従ってください。
⚠**警告**	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
⚠**注意**	これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。

通知	これは、人身傷害とは関係のない損害を引き起こすおそれのある場合に用います。

【表記例１】感電注意
△の図記号は注意していただきたいことを示し、△の中に「感電注意」などの注意事項の絵が描かれています。

【表記例２】分解禁止
⊘の図記号は行ってはいけないことを示し、⊘の中に「分解禁止」などの禁止事項の絵が描かれています。
なお、⊘の中に絵がないものは、一般的な禁止事項を示します。

【表記例３】電源プラグをコンセントから抜け
●の図記号は行っていただきたいことを示し、●の中に「電源プラグをコンセントから抜け」などの強制事項の絵が描かれています。
なお、❗は一般的に行っていただきたい事項を示します。

安全に関する共通的な注意について

次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

■操作は、このマニュアル内の指示、手順に従って行ってください。
■本製品やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。
■本ソフトウェアをインストールするシステム装置のマニュアルを参照し、記載されている注意事項は必ず守ってください。

これを怠ると、人身上の傷害やシステムを含む財産の損害を引き起こすおそれがあります。

操作や動作は

マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行わないでください。
本製品について何か問題がある場合は、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

自分自身でもご注意を

本製品やマニュアルに表示されている注意事項は、十分検討されたものです。それでも、予測を超えた事態が起こることが考えられます。
操作に当たっては、指示に従うだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。

安全にお使いいただくために（続き）

製品の損害を防ぐための注意

本製品の取り扱いにあたり次の注意事項を常に守ってください。

本製品のインストールについて

本製品は、本製品の動作をサポートしているシステム装置でご使用ください。それ以外のシステム装置にインストールすると、システム装置の仕様の違いにより故障の原因となります。サポートの有無については、システム装置のユーザーズガイドなどでご確認ください。

本マニュアル内の警告表示

⚠警告

本マニュアル内にはありません。

⚠注意

本マニュアル内にはありません。

通知

本マニュアル内にはありません。

目次

1

お使いになる前に

この章では、システム装置の概要およびリモートコンソールオプションを使用する前に知っておいていただきたい内容について説明します。

1.1 事前に準備いただくこと

補足

コンソール端末の推奨条件およびLANケーブルについての必要条件は「動作環境・制限事項」をご参照ください。

コンソール端末とリモートコンソール機能内蔵システム装置がネットワーク機器を介さず直接接続し、コンソール端末が GigaLAN で無い場合はクロスケーブルを使用してください。

リモートコンソールをお使いになる前に、お客様に以下の周辺機器をご用意いただく必要があります。

・コンソール端末（コンソール端末用 PC）
・LAN ケーブル（ストレートまたはクロス）
・HUB または LAN スイッチ

1.2 リモートコンソールオプションについて

リモートコンソールオプションはリモートコンソール機能を内蔵したシステム装置にてご利用いただけます。
但し、一部機能に制限がありますので詳細は「リモートコンソールアプリケーションの主な機能」をご確認ください。

1.3 システム装置の接続

ご用意頂いたコンソール端末とシステム装置のマネジメントインタフェースコネクタを LAN 接続してご使用ください。詳細はシステム装置のユーザーズガイド ～リモートマネジメント編～ を参照ください。

1.4 マニュアルCDについて

リモートコンソールをご使用になる前に次の点をご確認ください。
もし不具合がある時は、サポートサービスにご連絡ください。

・形式が注文通りの物であるか？
・破損したところはないか？

リモートコンソールオプション マニュアル CD

2

リモートコンソールの概要

この章ではリモートコンソールの概要について説明します。

2.1 特徴

❑ リモートコンソールアプリケーション

システム装置では､コンソール端末と接続してリモートコンソールアプリケーションを使用します。リモートコンソールアプリケーションは以下の機能を備えます。

リモートコンソールアプリケーションの主な機能

リモート KVM 機能

システム装置の BIOS 画面/OS 画面を遠隔地にあるコンソール端末上に LAN を経由して表示します。また、キーボード、マウスの遠隔操作を可能とします。

リモート電源操作

システム装置の電源 ON、OFF、リセット、NMI 発行を行うことができます。

リモート FD 機能、リモート CD/DVD 機能

リモート FD 機能とは、コンソール端末に搭載または接続されている FD ドライブをシステム装置に認識し、システム装置で使用できる機能です。コンソール端末上の FD イメージを参照することもできます。リモート CD/DVD 機能とはコンソール端末に搭載または接続されている CD/DVD ドライブをシステム装置から参照する機能です。コンソール端末上の CD/DVD イメージを参照することも可能です。リモート FD 機能、リモート CD 機能を使用してシステム装置の OS を起動することも可能です。

システム装置識別ランプ

コンソール端末と接続しているシステム装置の識別ランプ（SERVICE ランプスイッチ）を点灯することができます。
システム装置に識別ランプ（SERVICE ランプスイッチ）が無い場合は、使用できません。

2.2 動作環境・制限事項

❑ コンソール端末の動作条件

制限

コンソール端末のグラフィックボードの表示性能が低い場合には、コンソール端末側の画面表示およびマウスの動作が非常に遅くなる場合がありますので、コンソール端末の選定にあたっては、その点を配慮してください。
サーバ製品の表示性能は、一般的なパソコンの表示性能に比べて低い場合があります。表示性能の低いサーバ製品をコンソール端末としてご使用になると、画面表示およびマウスの動作が遅い場合がありますのでご注意下さい。

補足

より快適にお使いになるために動作条件以上の性能を満たすコンソール端末での使用を推奨します。

コンソール端末の動作条件として、以下の項目を満たしてください。

コンソール端末	動作条件
OS	Windows Server 2012 Windows Server 2008 R2 Windows Server 2008 Windows Server 2003 R2 Windows Server 2003 Windows 7 Professional Windows Vista Business Windows XP
インターネットブラウザ	Internet Explorer7.0 以降 *1 *2
Java	ORACLE Java Runtime Environment バージョン 6 以上 *2 *3
CPU	動作クロック 1GHz 以上
メモリ	256MB 以上
表示解像度	1,024 x 768 ﾄﾞｯﾄ以上
LAN	100Base-TX 以上
CD/DVD ドライブ	コンソール端末内蔵または USB 接続の CD/DVD ドライブ USB 接続の場合は USB2.0 準拠のドライブを推奨
FD ドライブ	コンソール端末内蔵または USB 接続の FD ドライブ
キーボード	106/109 日本語キーボードまたは 101/104 英語キーボード

*1 Internet Explorer7.0以降はOS標準のブラウザを推奨します
*2 64bit版は未サポートです。64bit版OSをご使用の場合でも32bit版を使用してください
*3 次のURLから最新のバージョンをダウンロードし、インストールしてください
http://java.com/ja/download/

❑ LAN ケーブルの必要条件

カテゴリ-5 以上の規格に対応したケーブルをご使用ください。

❑ リモートコンソールアプリケーション使用の制限

他のリモート機能プログラム（例：JP1/Server Conductor のリモート機能）とリモートコンソールアプリケーションを組み合わせて使用した場合、カーソルが 2 重に表示される等の現象が発生します。
リモートコンソールアプリケーションは他のリモート機能プログラムと組み合わせて使用しないでください。

❑ 接続先システム装置の OS インストールに関する制限事項

（1）Windows の場合

Windows Server 2008 Hyper-V 環境での、ゲスト OS インストールは未サポートです。

（2）Linux の場合

リモートコンソール接続中は、HA8000 対応セットアップ CD（リカバリ CD）を使用した Linux のインストールを行うことが出来ません。HA8000 対応セットアップ CD（リカバリ CD）を使用する場合は、リモートコンソールを接続していない状態でインストールをしてください。

（3）VMware の場合

VMware インストール完了後の再起動時に、接続先システム装置に搭載されている CD/DVD ドライブがイジェクトされます。リモートコンソールによるインストールを行った場合、システム装置本体の CD/DVD トレイが開いたままになります。

❑ 接続先システム装置の起動時について

システム装置の起動中に USB キーボード、USB マウスの抜き差しを行わないでください。起動中に抜き差しを行うとリモート KVM 機能が正常に動作しない場合があります。

❑ 接続先システム装置の復旧時について

リカバリやコンピュータの修復など、接続先システム装置の復旧時はリモート FD、リモート CD/DVD を使用しないでください。システム装置にリモート FD、リモート CD/DVD が搭載される事によりドライブが適切に割り当てられず、システム復旧が出来ない場合があります。

❑ リモートコンソールの表示解像度

システム装置側画面の解像度をコンソール端末側のウィンドウサイズ以上に設定した場合は、コンソール端末側では画面の中のウィンドウサイズ分だけ表示されます。画面右および画面下に表示されるスクロールバーの操作により、システム装置側画面の表示範囲を変更することができます。

❑ 複数のコンソール端末からの接続（**N:1**通信）

複数のコンソール端末から1台のシステム装置に対して、同時ログインを行うことはできません。

❑ キーボード・マウス

リモートKVMから操作を行う場合、システム装置側のキーボード・マウスの操作を同時に行わないでください。同時に操作を行うと正常に動作しない場合があります。

❑ テンキー

コンソール端末に接続されるキーボードのテンキーは、コンソール端末上の［NumLock］の状態に関わらず、システム装置に接続されたキーボードの［NumLock］の状態に依存します。

❑ マウスモード

リモートコンソールは、ABSOLUTEモードおよびRELATIVEモードの2つのマウスモードをサポートします。システム装置のOSに応じ、以下のようにマウスモードを設定する必要があります。

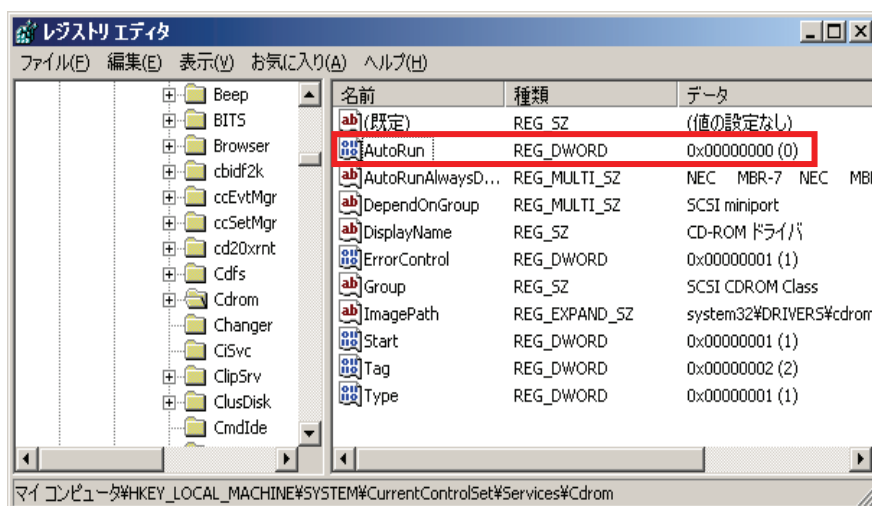
・システム装置OS がWindowsまたはRHEL6の場合、ABSOLUTEモードに設定します。
・システム装置OS が上記以外の場合、RELATIVEモードに設定します。

マウスモードが上記のように設定されていない場合、マウスが正常に動作しない場合があります。設定方法は「4.7マウスモードの設定方法」をご参照ください。

❑ リモートCD/DVD使用時のコンソール端末側の設定について

リモートCD/DVDをご使用になる際は、コンソール端末側のWindowsのCD/DVD自動再生機能（Auto Run機能）を無効にしてください。
CD/DVD自動再生機能（Auto Run機能）の設定は下記手順で行ってください。

CD/DVD自動再生機能（Auto Run機能）を無効にする方法

(1) ［スタート］-［ファイル名を指定して実行］から regedit を起動します。
(2) HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥Cdromを展開します。
(3) AutoRun値のデータを 0 に設定し、regedit を終了します。
(4) コンソール端末を再起動します。

CD/DVD自動再生機能を有効にしたい時は、AutoRun値を 1 に設定してください。

3

セットアップ方法

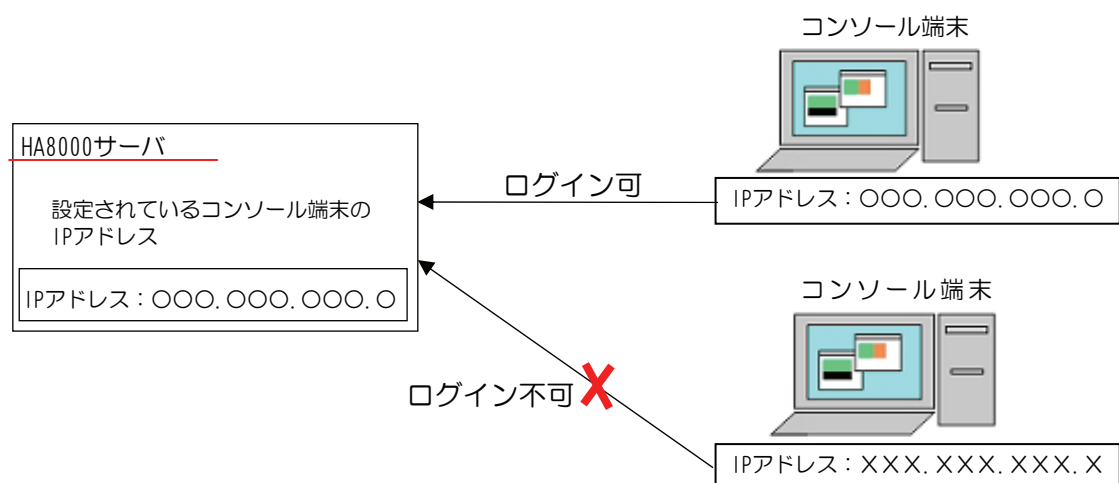
この章では、システム装置のマネジメントインタフェースコネクタの IP アドレスの設定、システム装置のリモートコンソールセキュリティについて説明します。

3.1 IPアドレス設定方法

マネジメントインタフェースコネクタについて、出荷時に以下の IP アドレスが初期値として設定されています。IP アドレスを変更する場合は、初期設定されている IP アドレスにて Web コンソール機能に接続して IP アドレスの変更をおこなってください。
詳細はシステム装置のユーザーズガイド ～リモートマネジメント編～「リモートマネジメント機能の使用準備」を参照して下さい。

設定項目	初期値
IP アドレス	192.168.100.100
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	未設定

3.2 リモートコンソール設定

リモートコンソールでは不正なユーザの使用を防ぐ為、以下のセキュリティを設けています。
・ユーザ ID、パスワードによるログイン時の認証
・IP アドレスチェックによる接続コンソール端末の制限

ユーザ ID、パスワード、接続コンソール端末の制限の設定についてはシステム装置のユーザーズガイド ～リモートマネジメント編～を参照してください。

4

使用方法

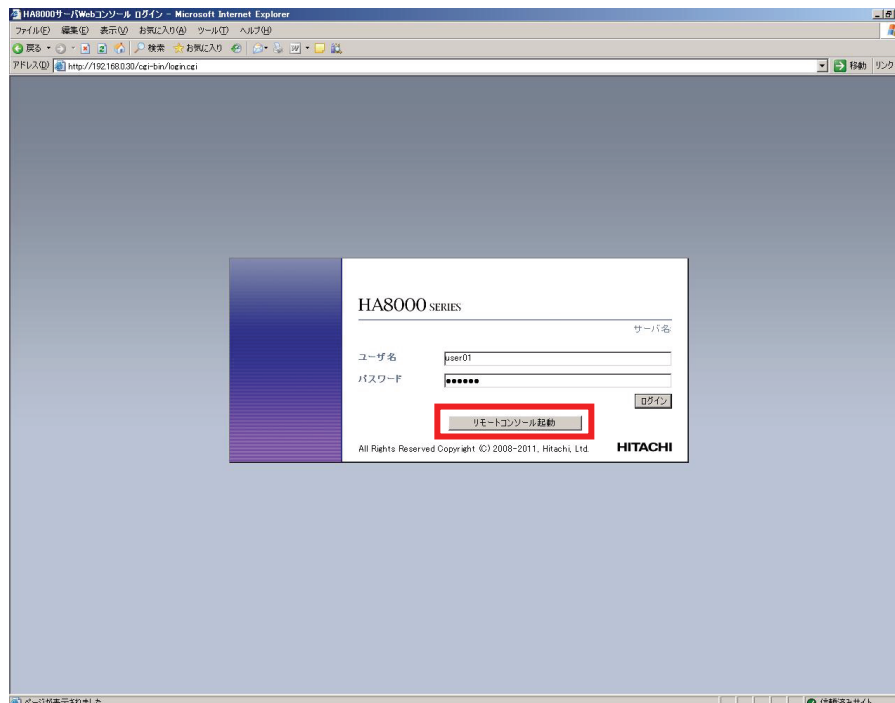
この章では、リモートコンソールの使用方法について説明します。

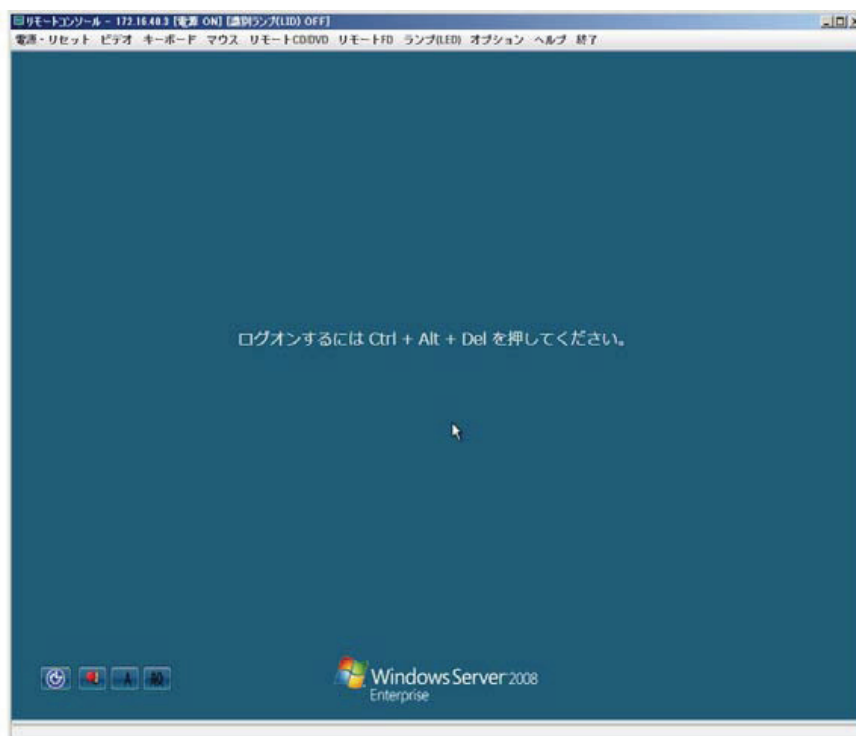
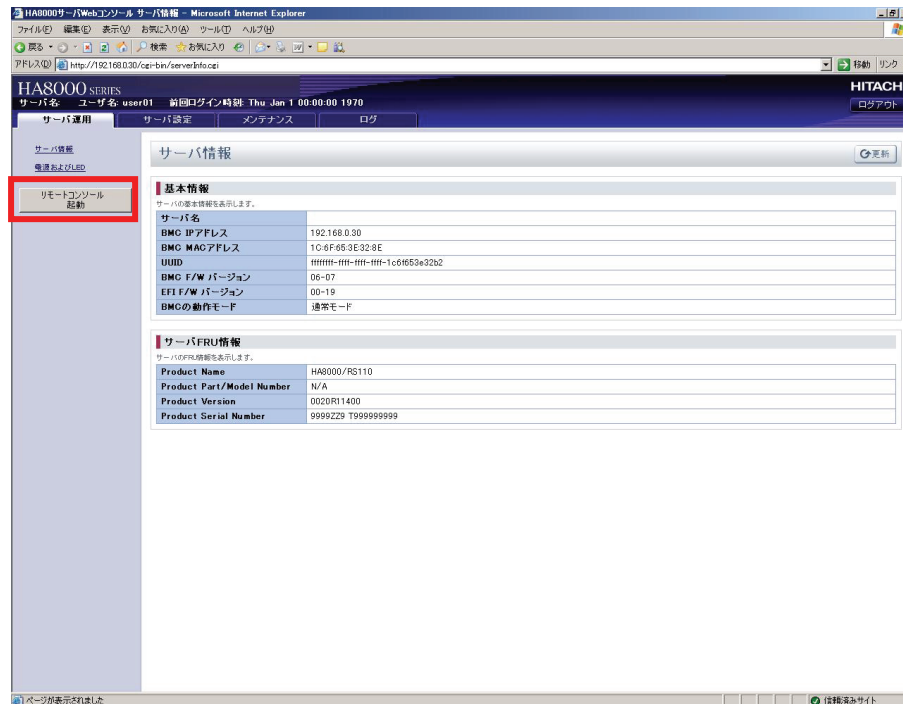
4.1 起動方法

コンソール端末のInternet Explorerを立ち上げ「3.1 IPアドレスの設定方法」で設定したIPアドレスを入力します。Webコンソールのログイン画面またはログイン後に表示される［リモートコンソール起動］ボタンをクリックします。

64bit版Internet Explorerは使用しないでください。64bit版OSをご使用の場合でも32bit版Internet Explorerを使用してください。

64bit版OSの場合、32bit版Internet Explorerは下記から起動してください。
　C:¥Program Files (x86)¥Internet Explorer¥iexplore.exe

Windows Server2012では64bit版Internet Explorerが標準で起動するため、32bit版Internet Explorerを使用して頂けるようご注意願います。

表示されたログインダイアログにユーザ ID とパスワードを入力し、［接続］ボタンをクリックします。

ユーザ認証が成功するとウィンドウが作成され、システム装置の VGA が表示されます。

既に Web コンソールにログインしている場合は、画面左側にある［リモートコンソール起動］ボタンをクリックすることでログインダイアログが表示されます。

リモートコンソールアプリケーションの終了

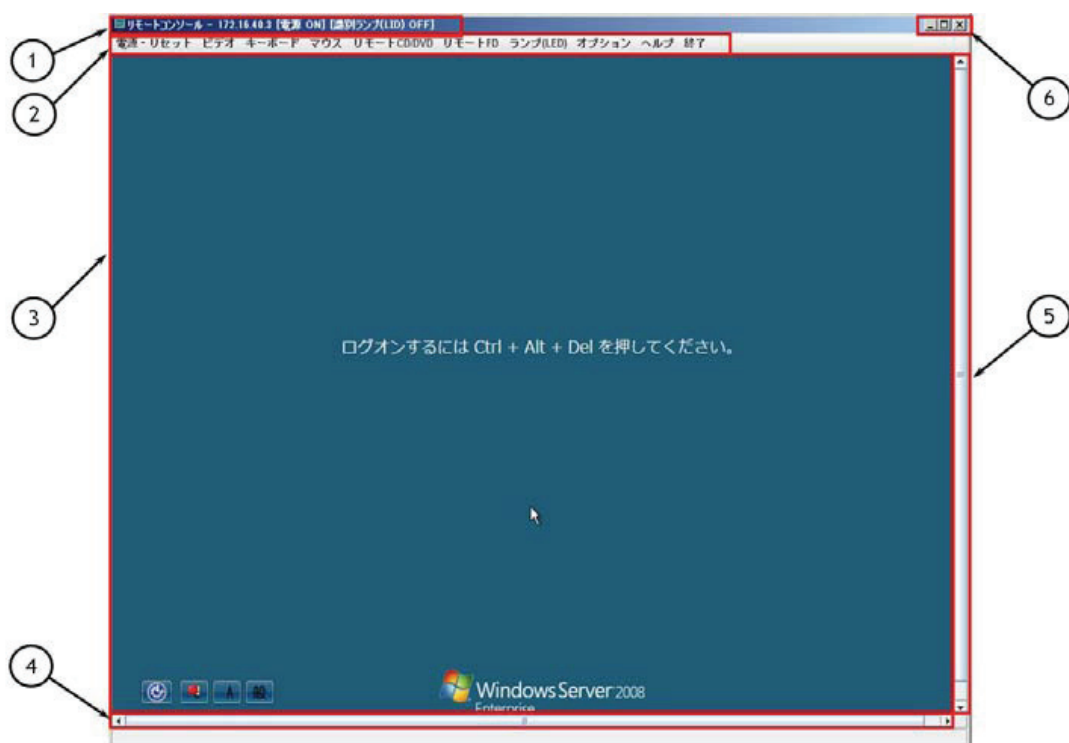
リモートコンソールアプリケーションを終了するには、メニューの［終了］-［終了］を選択してください。

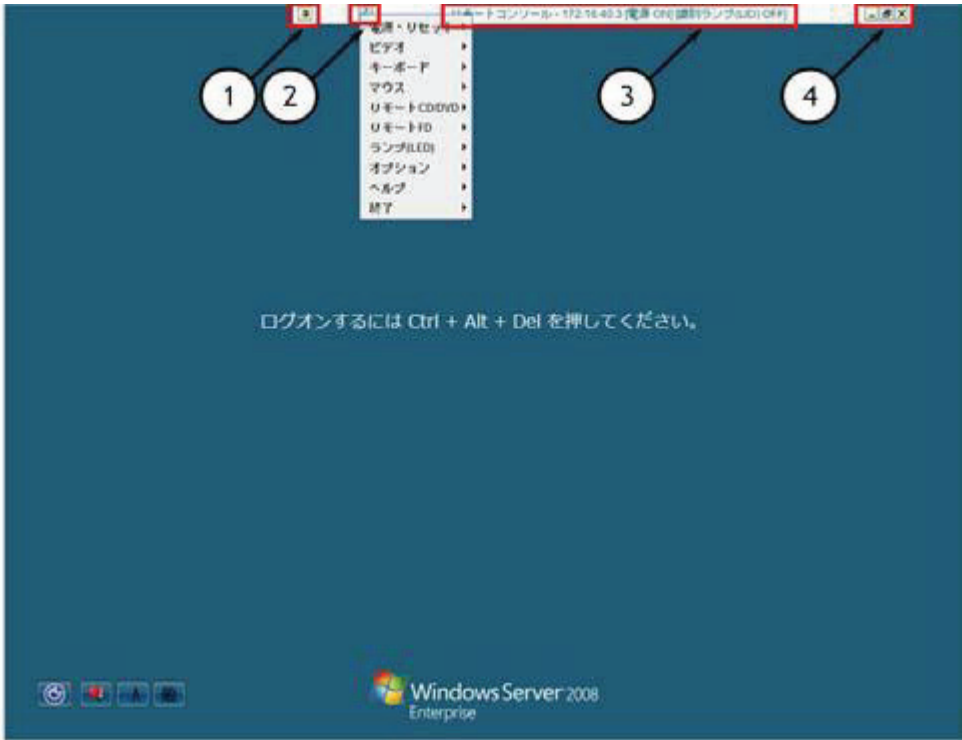
4.2 機能詳細

リモートコンソール使用時は、コンソール端末でのキーボード入力に制限があります。詳しくは「ご注意」を参照してください。

識別ランプ(SERVICE ランプスイッチ)を点灯、消灯するとシステム装置のSERVICE ランプスイッチを操作した場合と同様に SERVICE ランプスイッチの表示モードが切り替わります。

ウィンドウの機能

リモートコンソールアプリケーションのウィンドウの機能を説明します。

項	部位	機能
1	タイトルバー	システム装置のIP アドレス、電源状態および識別ランプの状態を表示します。
2	メニュー	リモートコンソールアプリケーションの機能を実行するために用いられます。マウスカーソルによりメニュー項目が選択されると対応する機能が実行されます。 各メニュー項目の機能については、下記「メニュー項目と機能」を参照ください。
3	リモートスクリーン	システム装置のビデオ画面を表示します。
4, 5	スクロールバー	システム装置のビデオ画面の表示範囲を変更します。
6	ウィンドウ制御ボタン	ウィンドウの最小化、最大化、および終了を行います。

フルスクリーンモードでは画面上部のバーを用いてリモートコンソールアプリケーションの操作を行います。バーはマウスカーソルを画面上部に移動すると出現します。

番号	部位	機能
1	ピンボタン	バーを常に表示するようにする。
2	メニューボタン	リモートコンソールアプリケーションの機能を実行するために用いられるメニューを表示します。 各メニュー項目の機能については、下記「メニュー項目と機能」を参照ください。
3	タイトル	システム装置のIP アドレス、電源状態および識別ランプの状態を表示します。
4	ウィンドウ制御ボタン	ウィンドウの最小化、最大化、および終了を行います。

メニュー項目と機能

メニュー項目		機能
電源･リセット	電源オン	システム装置の電源をON にします。
	強制電源オフ	システム装置の電源をOFF にします。
	リセット	システム装置をリセットします。
	NMI	システム装置にNMI を投入します。
ビデオ	再描画	リモートスクリーンを再描画し、システム装置の最新のビデオ画面を表示します。
	フルスクリーン表示	フルスクリーンモードとウィンドウ表示モードの切り替えを行います。

メニュー項目		機能
キーボード	左Alt キー押下	左[Alt]キーを押下します。一度本項目が選択されると、もう一度選択されるまでの間キーが押されたままの状態となります。
	右Alt キー押下	右[Alt]キーを押下します。一度本項目が選択されると、もう一度選択されるまでの間キーが押されたままの状態となります。
	左Windows キー押下	左[Windows]キーを押下します。一度本項目が選択されると、もう一度選択されるまでの間キーが押されたままの状態となります。
	右Windows キー押下	右[Windows]キーを押下します。一度本項目が選択されると、もう一度選択されるまでの間キーが押されたままの状態となります。
	Ctrl+Alt+Del キー入力	[Ctrl]+[Alt]+[Del]キーを入力します。
マウス	カーソル非表示	コンソール端末のマウスカーソルを非表示にします。マウスカーソルを再び表示させるには[Alt]+[G]キーを使用してください。
リモートCD/DVD	CD/DVDドライブ使用	CD/DVDドライブを選択するためのダイアログを表示します。CD/DVDドライブが選択されるとリモートCD/DVDが開始されます。 リモートCD/DVDの実行中に本項目が選択されると、リモートCD/DVD が終了されます。
	CD/DVDイメージ使用	CD/DVDイメージファイルを選択するためのダイアログを表示します。CD/DVDイメージファイルが選択されるとリモートCD/DVDが開始されます。リモートCD/DVDの実行中に本項目が選択されると、リモートCD/DVDが終了されます。
	CD/DVDイメージ切り替え	リモートCD/DVDに使用されるCD/DVDイメージファイルを切り替えます。本項目は、CD/DVDイメージファイルを用いてリモートCD/DVDが開始されると有効になります。本項目が使用されると、仮想CD/DVDドライブ内のメディアが入れ替えられます。
リモートFD	FDドライブ使用	FDドライブを選択するためのダイアログを表示します。FDドライブが選択されるとリモートFDが開始されます。リモートFDの実行中に本項目が選択されると、リモートFDが終了されます。
	FDイメージ使用	FDイメージファイルを選択するためのダイアログを表示します。FDイメージファイルが選択されるとリモートFD が開始されます。リモートFDの実行中に本項目が選択されると、リモートFDが終了されます。
ランプ(LED)	識別ランプ(LID)点灯	システム装置の識別ランプを点灯します。システム装置にSERVICEランプが無い場合は、使用できません。
	識別ランプ(LID)消灯	システム装置の識別ランプを消灯します。システム装置にSERVICEランプが無い場合は、使用できません。
オプション	自動ログアウト無効	自動ログアウト機能を無効にします。もう一度本項目が選択されると、自動ログアウト機能が再び有効になります。
	日本語キーボード使用	日本語キーボードに対応した入力モードに切り替えます。日本語キーボードを使用する場合は本メニューを選択してください。
ヘルプ	ショートカットキー一覧	ショートカットキーの一覧を表示します。
	バージョン情報	リモートコンソールアプリケーションのバージョン情報を表示します。
終了	終了	リモートコンソールアプリケーションを終了します。

4.3 システム装置ディスプレイ設定方法

リモートコンソールを使用するときは、システム装置側のディスプレイ設定を変更する必要があります。各 OS のディスプレイ設定方法を説明します。

1024×768 より大きい解像度（「1152×864」、「1280×1024」など）では使用できる色数は 16 ビット以下となります。

専用 VGA ドライバをインストールする場合、マウスモードを「ABSOLUTE」に設定してください。マウスモードが「RELATIVE」の場合、マウスカーソルが表示されない場合があります。

専用 VGA ドライバを使用する場合、色数を［高（24 ビット）］に設定することはできません。

Windows のディスプレイ設定方法

システム装置側の OS が Windows の場合、専用 VGA ドライバの使用を推奨します。
「専用VGAドライバのインストール方法」を参照し、実施してください。
また、ディスプレイ設定のリフレッシュレートを 60Hz、色数を 16 ビットに設定することを推奨します。
「ディスプレイ設定のリフレッシュレート設定」を参照し、実施してください。

サーバ OS	解像度	色数
Windows	640×480	8 ビット
	800×600	16 ビット
		32 ビット
	1024×768（推奨）	16 ビット（推奨）
		32 ビット
	1280×1024	16 ビット
Linux	640×480	16 ビット
		24 ビット
	800×600	16 ビット
		24 ビット
	1024×768（推奨）	16 ビット（推奨）
		24 ビット
	1280×1024	16 ビット

上記以外の解像度、色数の組み合わせはサポートされていません。使用された場合、画面が表示されなかったり、画面が乱れたりする場合があります。

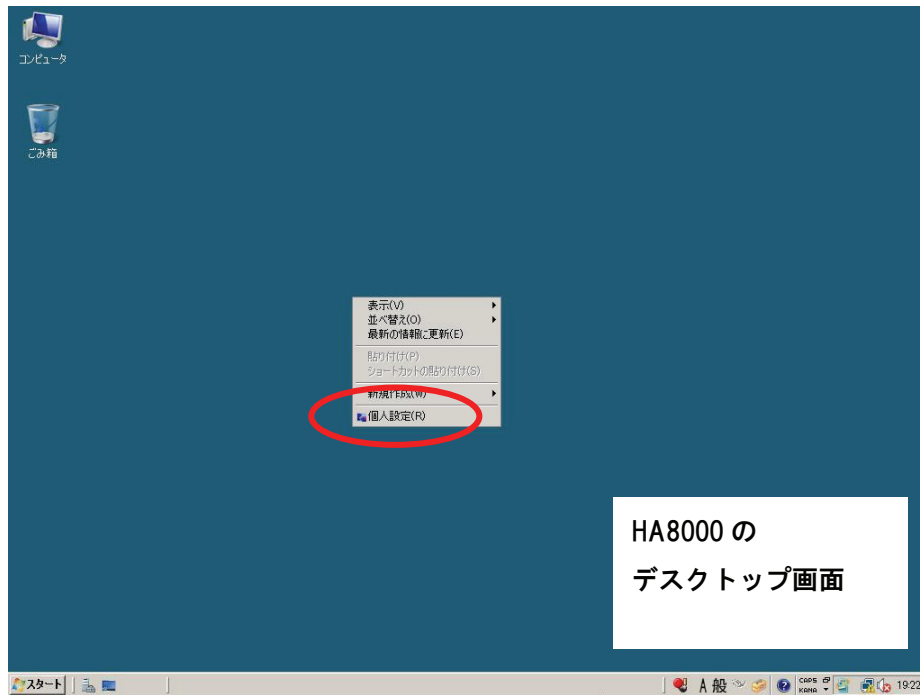
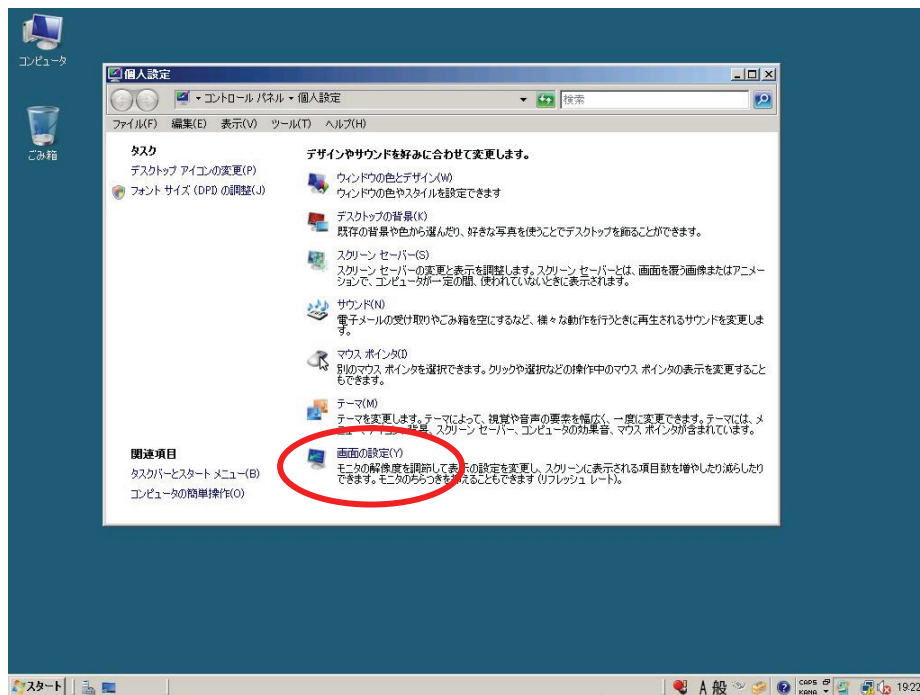
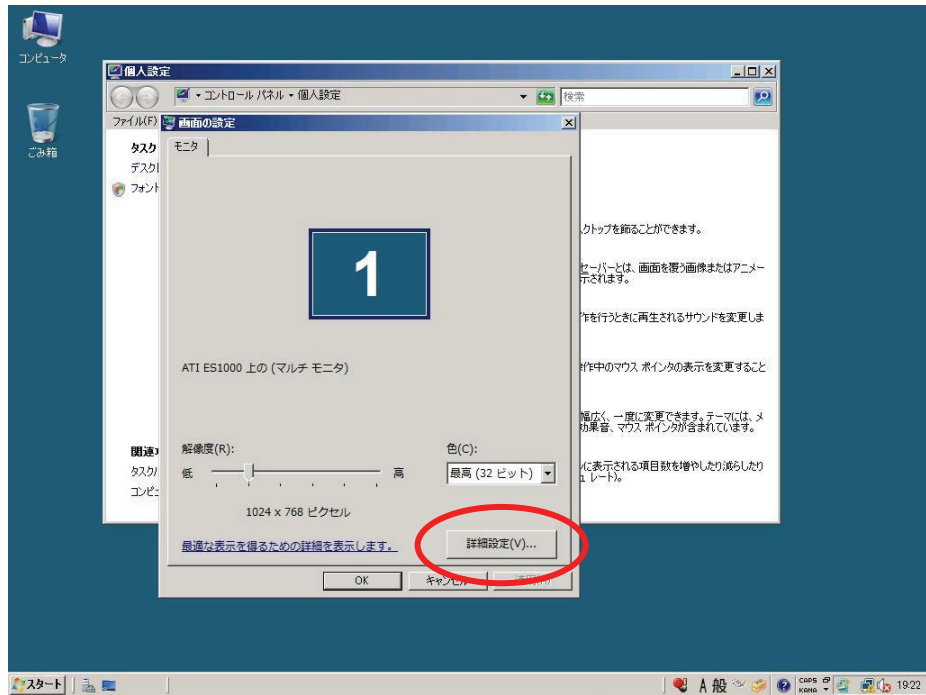
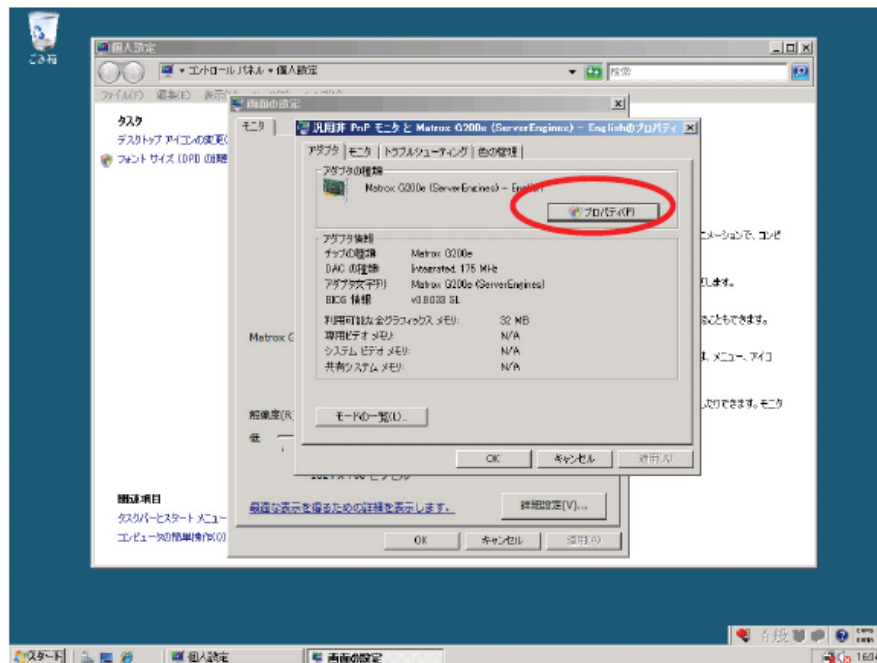
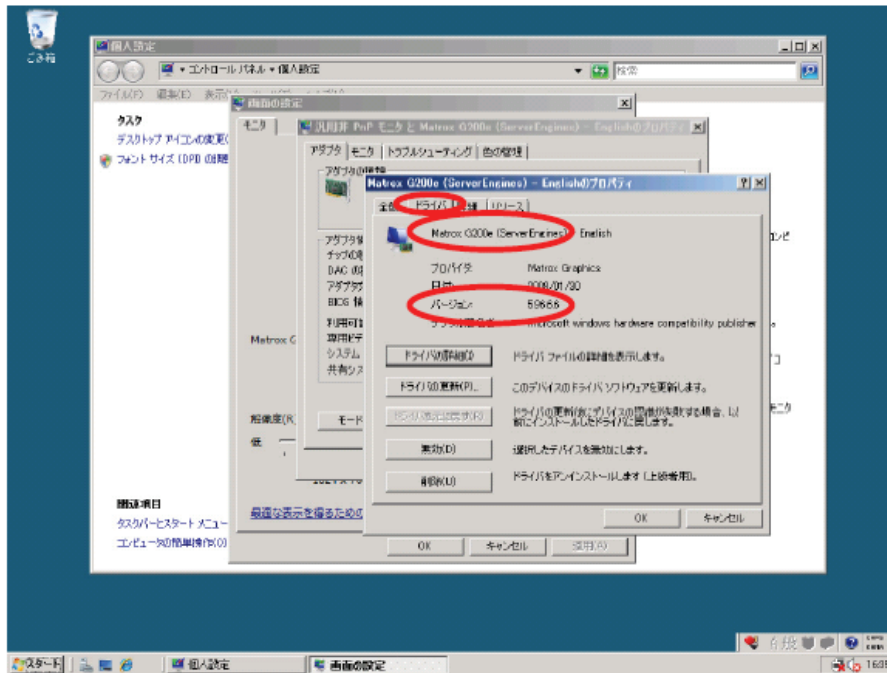
Windows Server 2012 では OS の仕様上、色数を **32** ビット以外に設定することが出来ないため、リモート **KVM** のレスポンスが悪くなる場合があります。

リモート KVM のレスポンスが悪い場合は、システム装置側の解像度を小さくしたり、システム装置側デスクトップ画面の背景（壁紙）を単色にすることでデータの通信量が減少し、レスポンスが改善されます。

専用 VGA ドライバのインストール方法

ここでは専用 VGA ドライバのインストール方法を説明します。

❑ システム装置側の OS が Windows Server 2008 の場合

画面上でマウスの右ボタンをクリックし、［個人設定］を選択します。

［個人設定］の［画面の設定］をクリックします。

［画面の設定］の［詳細設定］をクリックします。

表示された画面の［プロパティ］ボタンをクリックします。

表示された画面の［ドライバ］タブをクックします。
「Matrox G200e(ServerEngines)」と表示されていれば、専用ドライバがインストールされています。なお、本画面にてドライバのバージョンを確認することができます。

専用ドライバがインストールされていない場合、以下の手順でインストールしてください。

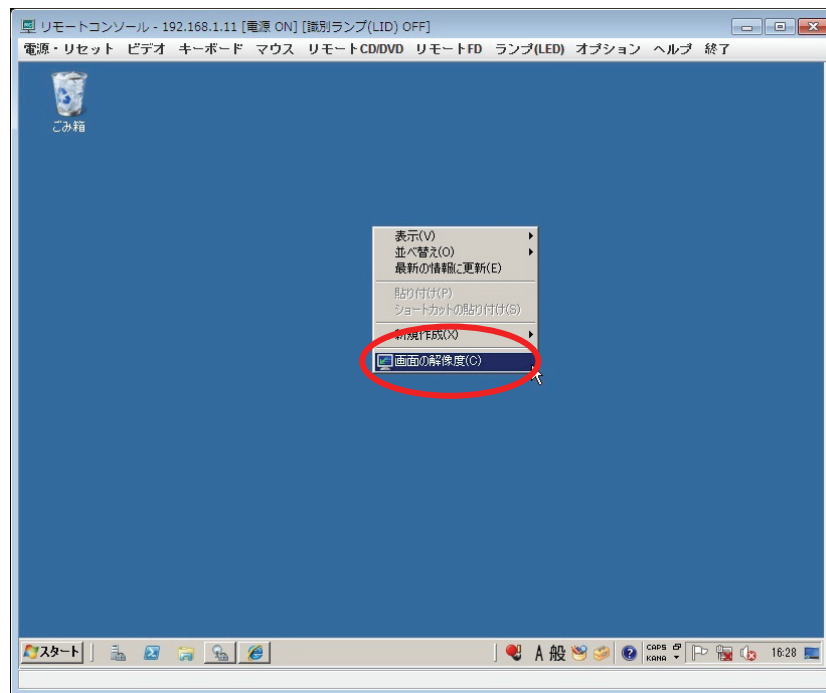
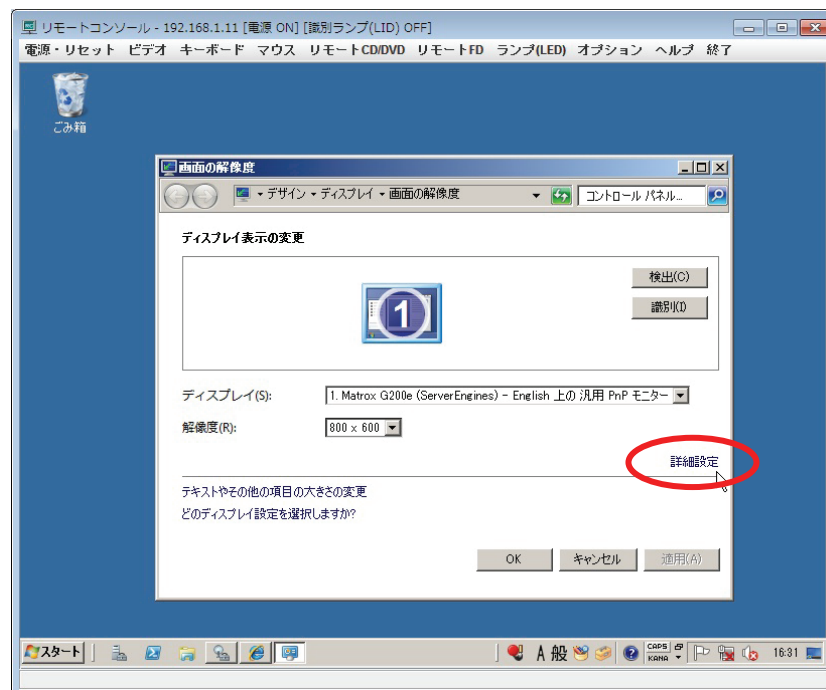
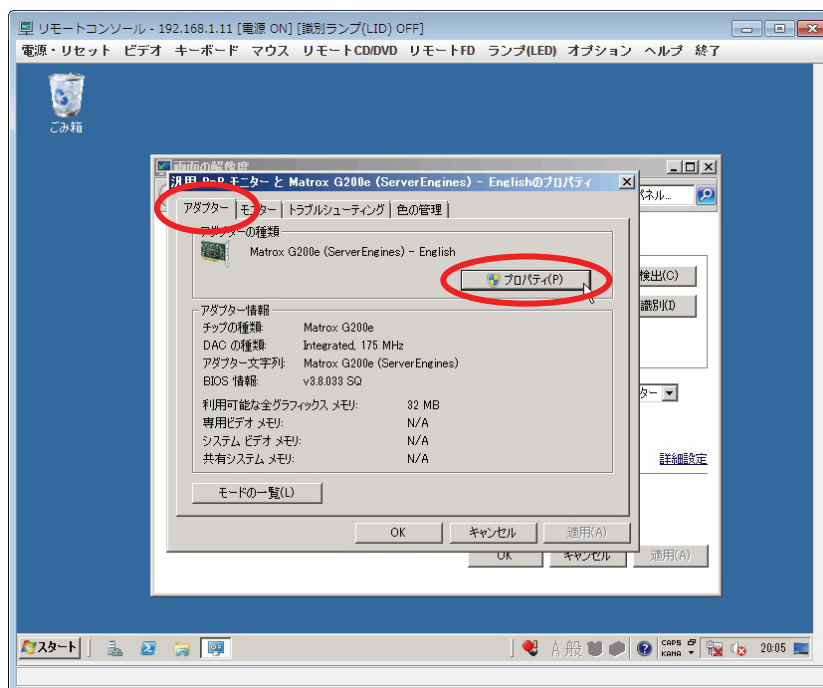
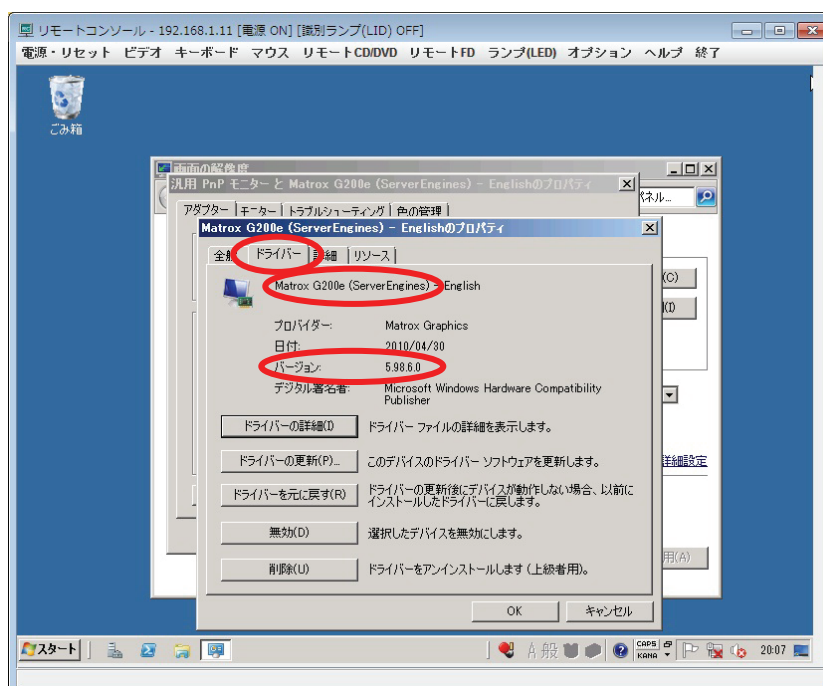
ドライバはシステム装置添付の「SystemInstaller」または「Hitachi Server Navigator DVD」に格納されています。

・「SystemInstaller」の場合
　¥Win2008¥Drivers¥SVGA¥Matrox_01 を開き、install.bat を実行します。

・「Hitachi Server Navigator DVD」の場合
　¥WinSrv2008¥Drivers¥SVGA¥Matrox_01 を開き、install.bat を実行します。

以上でドライバのインストールは終了です。
Windows Server 2008 を再起動し、インストールしたドライバを有効にしてください。

❑ システム装置側の OS が Windows Server 2008 R2 または Windows Server 2012 の場合

画面上でマウスの右ボタンをクリックし、［画面の解像度］を選択します。

［詳細設定］をクリックします。

表示された画面の［アダプター］タブの［プロパティ］ボタンをクリックします。

表示された画面の［ドライバ］タブをクックします。
「Matrox G200e(xxxxxx)」と表示されていれば、専用ドライバがインストールされています。なお、本画面にてドライバのバージョンを確認することができます。

専用ドライバがインストールされていない場合、以下の手順でインストールしてください。
ドライバはシステム装置添付の「SystemInstaller」または「Hitachi Server Navigator DVD」に格納されています。

・「SystemInstaller」の場合
¥Win2008¥Drivers¥SVGA¥Matrox_01 を開き、install.bat を実行します。

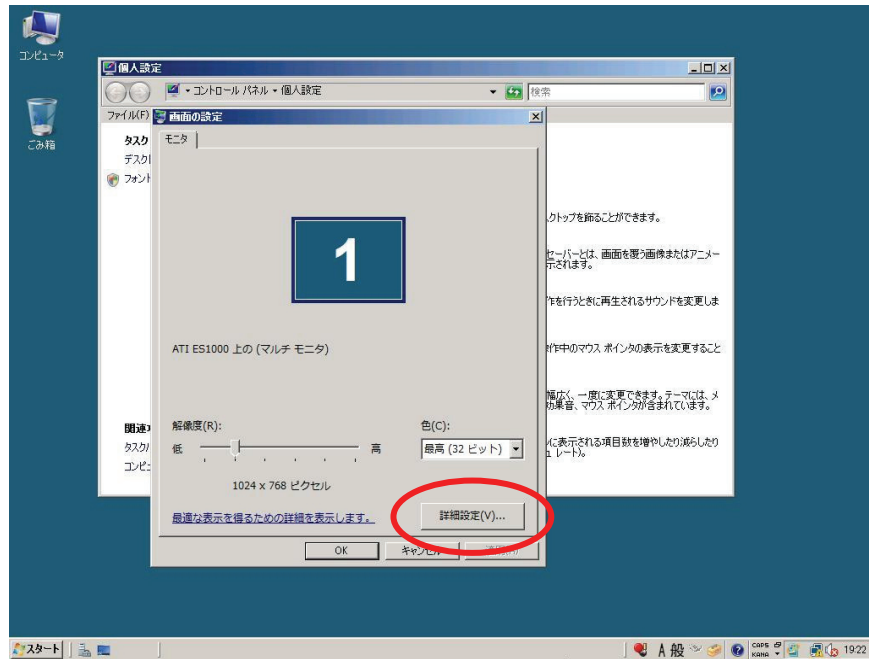
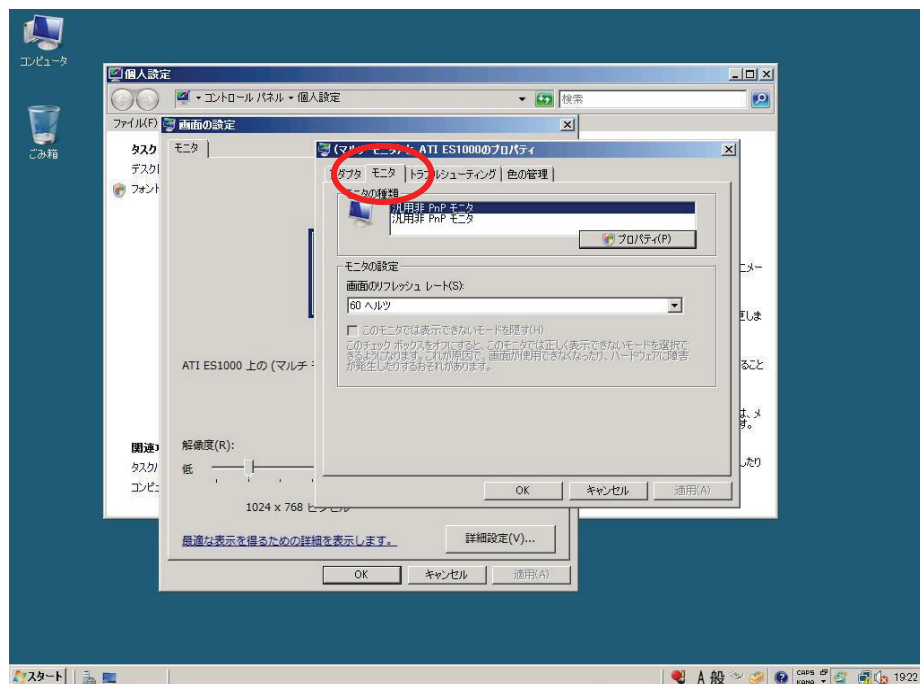
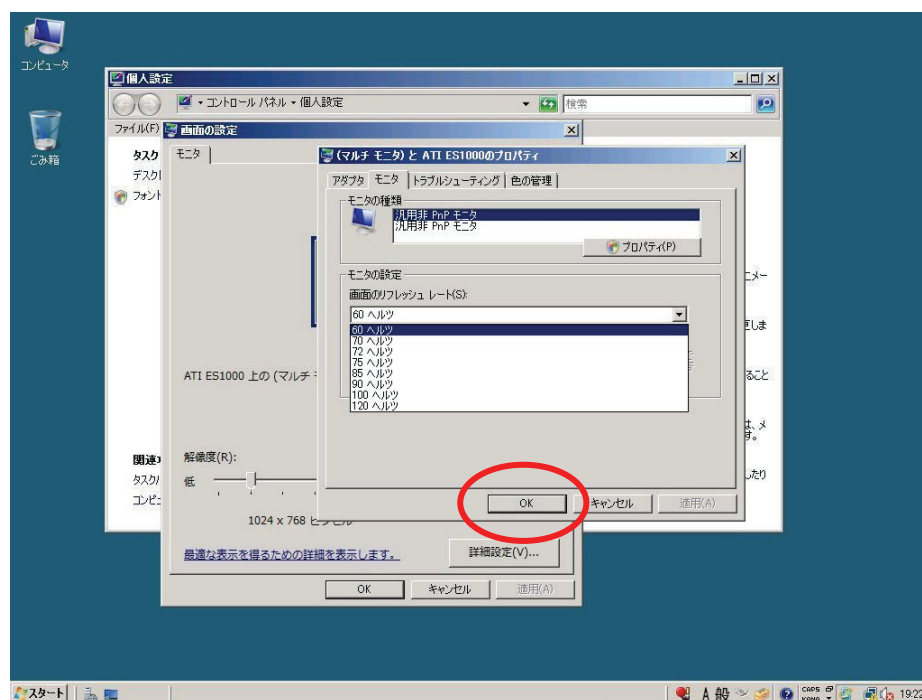
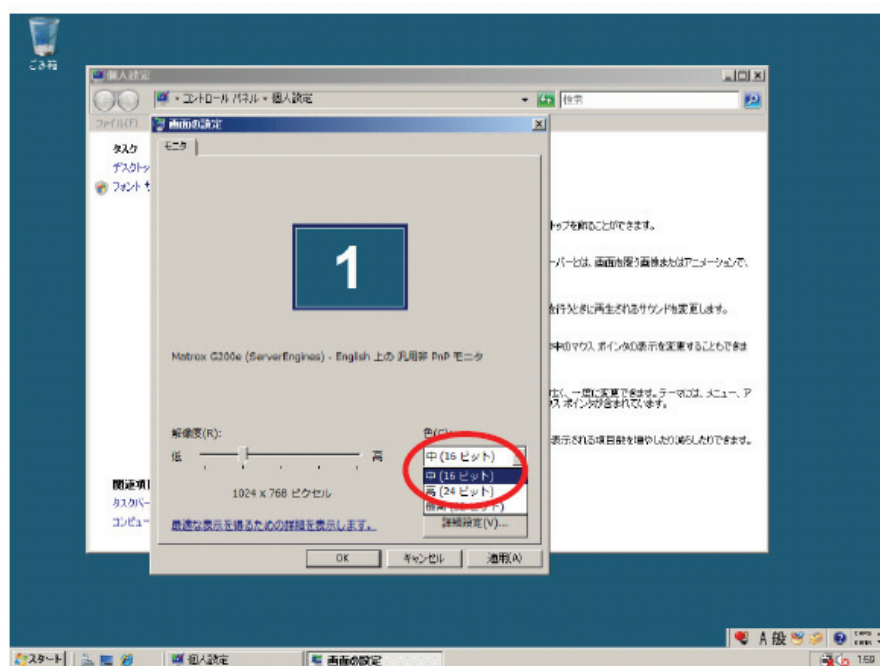
・「Hitachi Server Navigator DVD」の場合
Windows Server 2008R2 では、¥WinSrv2008R2¥Drivers¥SVGA¥Matrox_01 を開き、install.bat を実行します。
Windows Server 2012 では、¥WinSrv2012¥Drivers¥SVGA¥Matrox_01 を開き、install.bat を実行します。

以上でドライバのインストールは終了です。
Windows を再起動し、インストールしたドライバを有効にしてください。

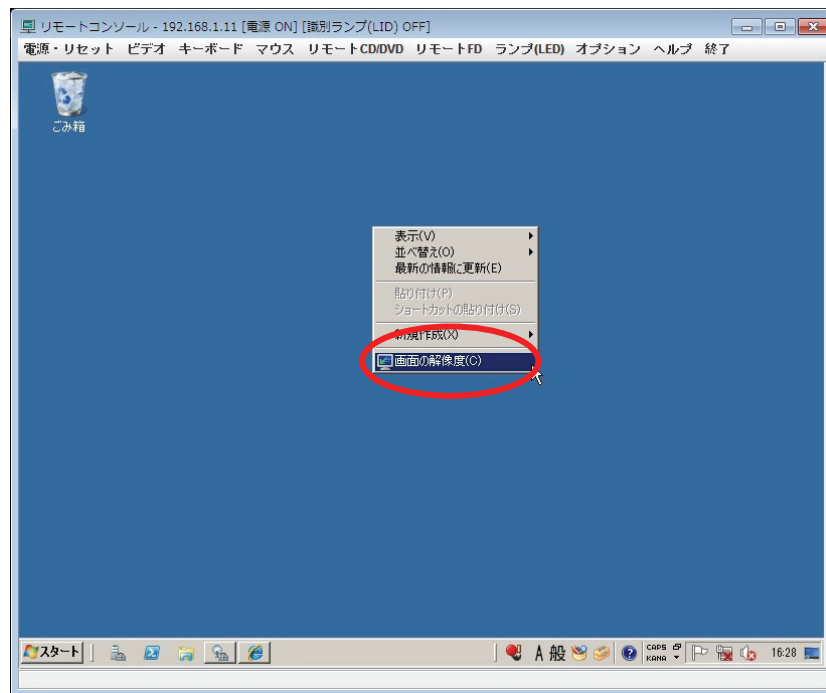
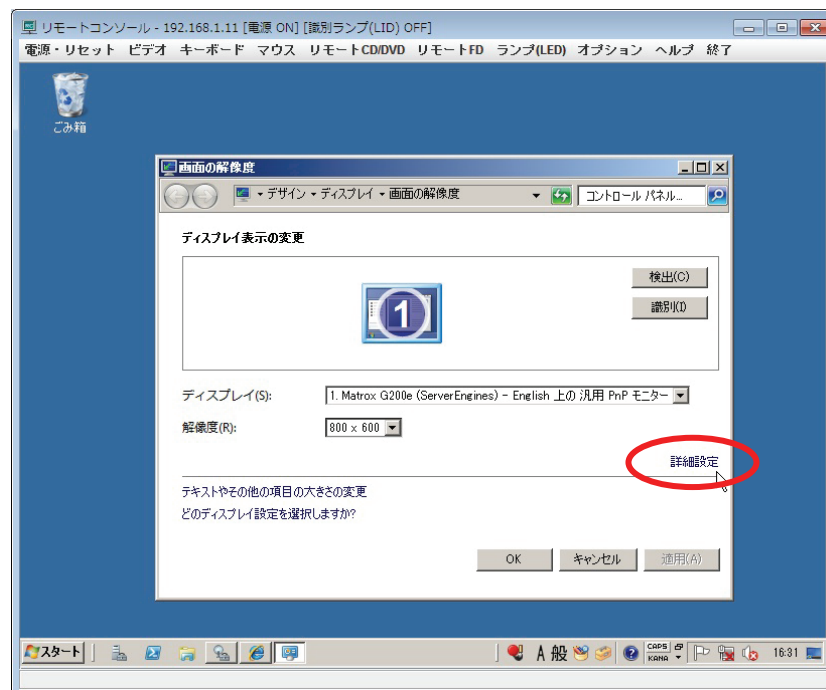
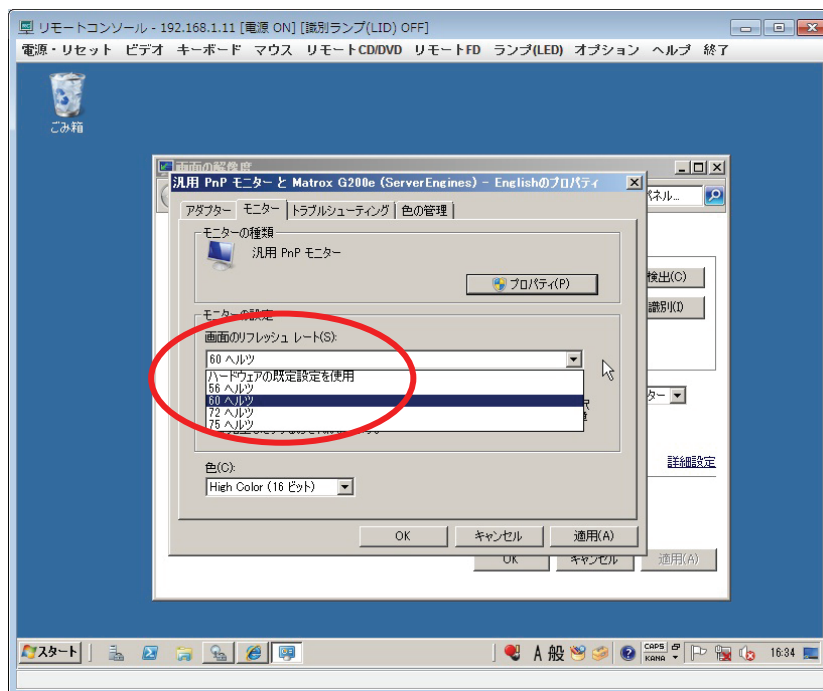
ディスプレイ設定のリフレッシュレートの設定方法

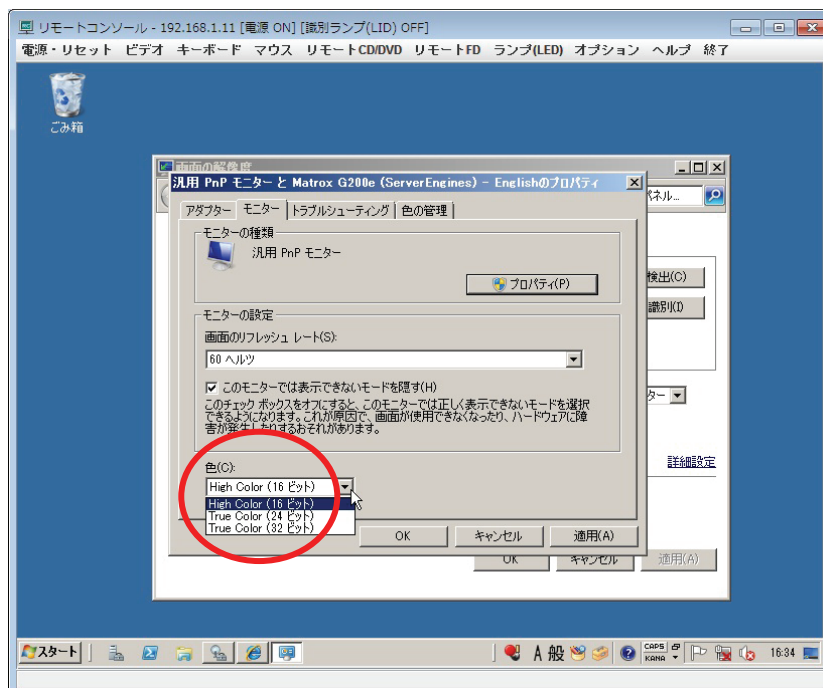
ここではディスプレイ設定のリフレッシュレートの設定方法を説明します。
ディスプレイ設定のリフレッシュレートは 60Hz を推奨します。

❑ システム装置側の OS が Windows Server 2008 の場合

画面上でマウスの右ボタンをクリックし、［個人設定］を選択します。［個人設定］の［画面の設定］をクリックすると以下の画面が表示されます。
［画面の設定］の［詳細設定］をクリックします。

表示されたウィンドウの［モニタ］タブをクリックします。

画面のリフレッシュレートから［60 ヘルツ］を選択し［OK］ボタンをクリックします。
設定変更を確認するメッセージが表示された場合は［はい］をクリックしてください。

色数は 16 ビットに設定することを推奨します。以下の手順で設定してください。
［画面の設定］の［色］を［中（16 ビット）］に設定し、［OK］ボタンをクリックします。

確認のダイアログが表示された場合は、［はい］をクリックしてください。
以上で、ディスプレイ設定のリフレッシュレートの設定は終了です。

❑ **システム装置側の OS が Windows Server 2008 R2 または Windows Server 2012 の場合**

画面上でマウスの右ボタンをクリックし、［画面の解像度］を選択します。

［詳細設定］をクリックします。

表示された画面の［モニター］タブの［画面のリフレッシュレート］［60 ヘルツ］を選択し ［OK］ボタンをクリックします。
設定変更を確認するメッセージが表示された場合は［はい］をクリックしてください。

色数は 16 ビットに設定することを推奨します。以下の手順で設定してください。
［画面の設定］の［色］を［中（16 ビット)］に設定し、［OK］ボタンをクリックします。
確認のダイアログが表示された場合は、［はい］をクリックしてください。

補足
Windows Server 2012では色数の変更は出来ません（メニューも表示されません）。
色数は32ビット固定になります。

以上で、ディスプレイ設定のリフレッシュレートの設定は終了です。

システム装置側の OS が Linux の場合

システム装置側の OS が Linux の場合、ビデオカードタイプと解像度を設定する必要があります。以下に RHEL での設定方法を示します。

❑ システム装置側の OS が RHEL の場合

制限 GUI の「システム→管理→ディスプレイ」および「システム→設定→解像度の設定」により設定を行うと解像度、色数の設定が正常に反映されない場合や解像度変更後に画面が乱れる場合があります。解像度、色数の設定は/etc/X11/xorg.conf より行ってください。

制限 Linux の表示ドライバによってはリモートコンソールが正しく表示されない場合があります。

エディタで/etc/X11/xorg.conf を開き、以下の設定を行ってください。
/etc/X11/xorg.conf が無い場合は新規に作成してください。

- /etc/X11/xorg.conf の「Section "Device"」－「Driver」が「vesa」であることを確認してください。「vesa」以外の場合は、「vesa」に変更してください。
- /etc/X11/xorg.conf の「Section "Screen"」－「SubSection "Display"」－「Modes」の先頭を「"1024x768"」としてください。「Modes」行が無い場合、新たに作成してください。「Section "Screen"」－「DefaultDepth」および「Section "Screen"」－「SubSection "Display"」－「Depth」は「16」に設定することを推奨します。

/etc/X11/xorg.conf の設定例：

```
Section "Device"
Identifier "Videocard0"
Driver "vesa"
EndSection

Section "Screen"
Identifier "Screen0"
Device "Videocard0"
DefaultDepth 16
SubSection "Display"
Viewport 0 0
Depth 16
Modes "1024x768" "800x600" "640x480"
EndSubSection
EndSection
```

以上で Linux のディスプレイ設定は終了です。
解像度の設定を反映させるため、X Window を再スタートさせてください。

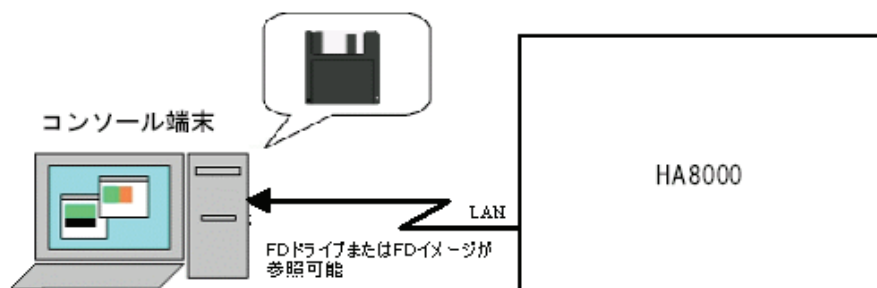
4.4 リモートFD使用方法

リモート FD 機能とは、システム装置からコンソール端末に搭載または接続されている FD ドライブまたは FD イメージを参照する機能です。ここではリモート FD の使用方法を説明します。

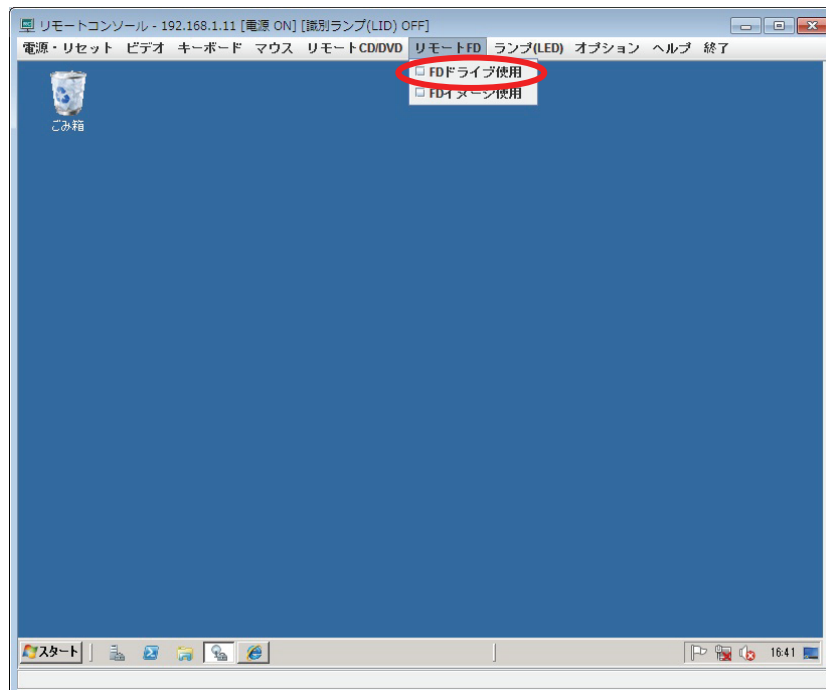
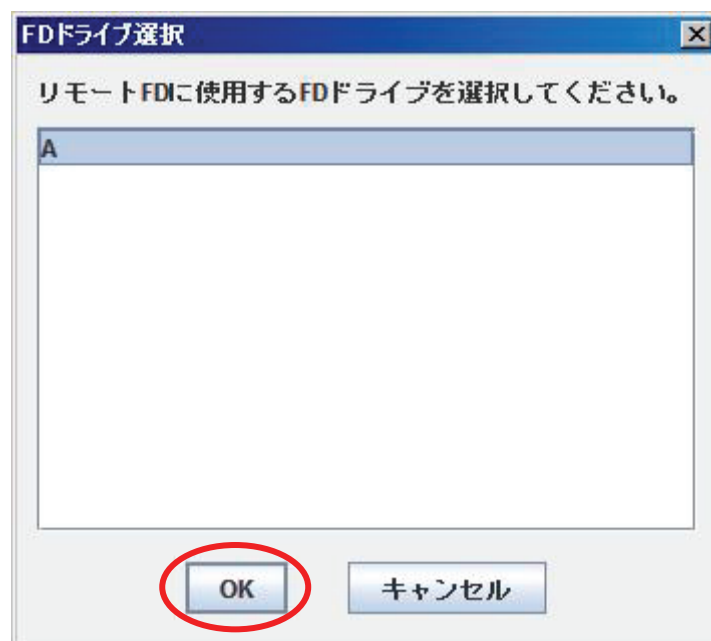
制限
1 台のシステム装置からは、1 台の FD ドライブまたは 1 つの FD イメージしか接続することができません。また複数台のシステム装置からコンソール端末の同一 FD ドライブをリモート FD として同時に使用するには、FD メディアまたは FD イメージファイルを「読み取り専用」に設定する必要があります。

制限
リモート FD は、サーバから USB デバイスとして認識されます。リモート FD 使用時、システム装置には 1 つの USB デバイスとしてリモート FD とリモート CD/DVD、リムーバブルディスクが搭載されます。リモート FD とリモート CD/DVD のいずれかの使用を開始するとサーバに USB デバイスが取り付けられ、両者の使用を終了するとサーバから USB デバイスが取り外されます。またリモート FD 使用時に追加されたリムーバブルディスクにアクセスするとディスクの挿入を要求される場合がありますが、使用することは出来ません。

制限
リモート FD を使用して FD メディア、FD イメージファイルをフォーマットすることはできません。フォーマットにはコンソール端末の FD ドライブをご使用ください。

制限
リモート FD を使用しシステム装置を起動する場合、システム装置の BIOS セットアップメニューより、Boot デバイスの順番を先頭に設定してください。

リモート FD 機能で、コンソール端末に搭載または接続されている FD ドライブを使用する場合と、コンソール端末の FD イメージを使用する場合の使用方法を説明します。

リモート FD ドライブ使用方法

メニューの［リモート FD］-［FD ドライブ使用］を選択します。

ドライブ選択画面が表示されますので、コンソール端末で使用している FD ドライブ選択して［OK］ボタンをクリックしてください。

コンソール端末に搭載または接続されている FD ドライブがリモート FD としてシステム装置に接続されます。メディアをドライブに挿入して使用してください。
Linux の場合、OS の Ver によりリムーバブル･ボリュームとして認識される場合があります。

リモート FD 機能を終了する場合は、再度メニューの［リモート FD］-［FD ドライブ使用］を選択してください。

リモート FD イメージ使用方法

リモート FD 機能でコンソール端末の FD イメージを使用する場合の使用方法は以下の通りになります。

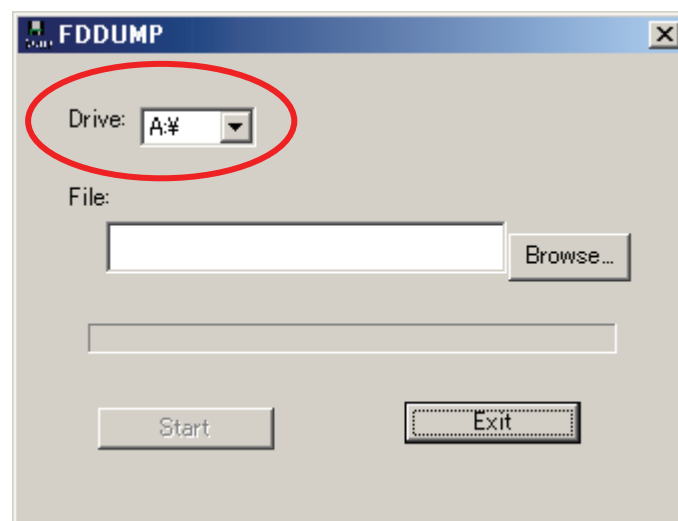
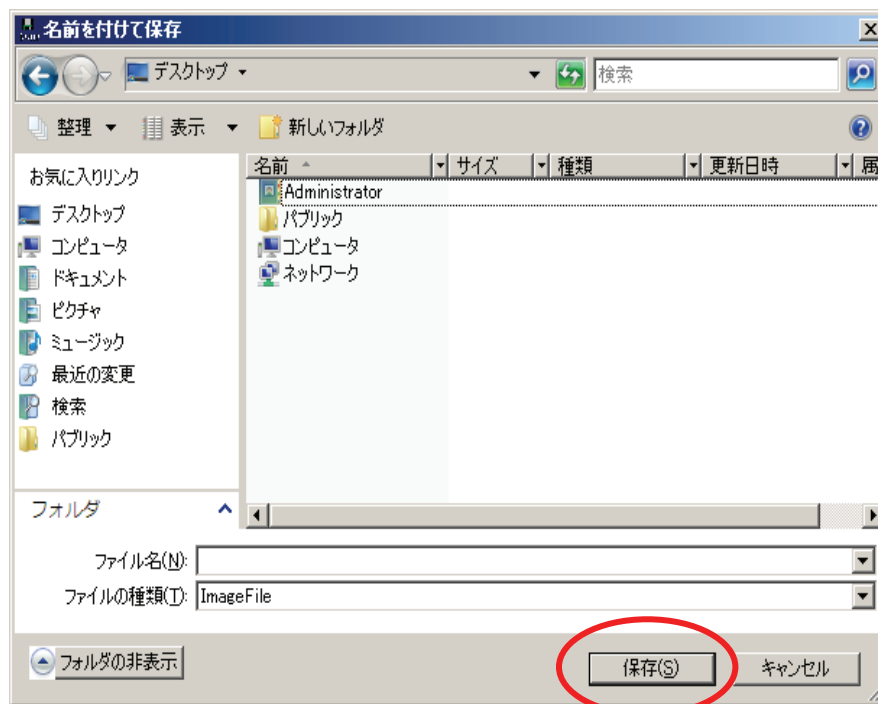
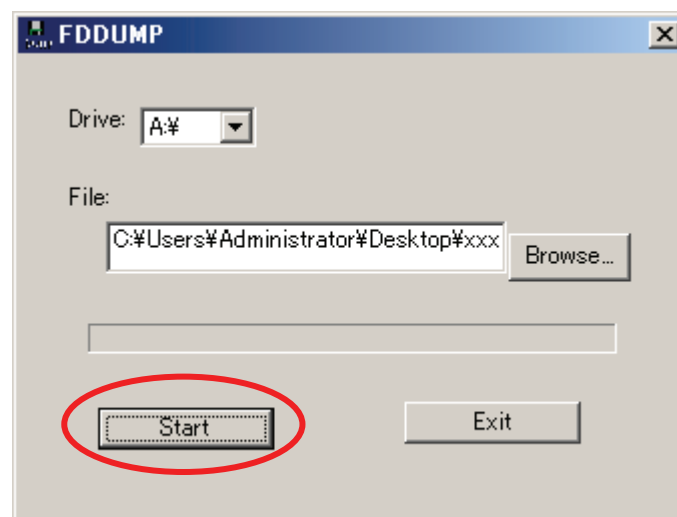
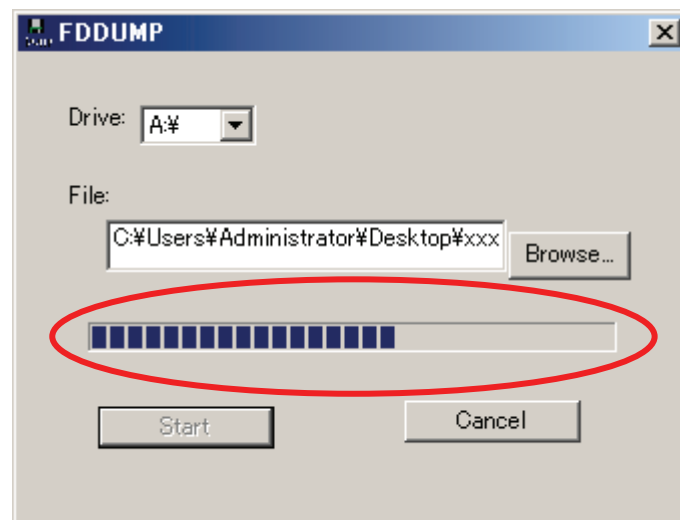
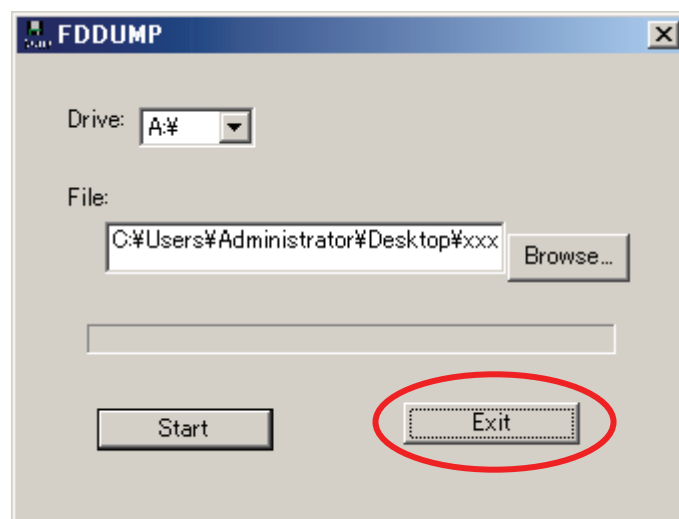
FD のイメージ化

リモート FD 機能を利用する為には、事前に FD の内容をイメージ化する必要があります。
イメージファイルは、FD イメージ変換ツールにより作成してください。
FD イメージ変換ツール（FDDUMP.exe）は、「リモートコンソールオプション マニュアル CD」の「Tool」フォルダに格納されています。

制限
イメージファイルは FD イメージ変換ツールで作成したファイルを使用してください。他のプログラムで作成したイメージファイルを選択した場合、正しく動作しない可能性があります。

補足
FD イメージ変換ツール（FDDUMP.exe）はコンソール端末上に直接コピーして使用してください。インストールおよび設定等は不要です。

FD の内容をイメージ化する方法は以下の通りです。

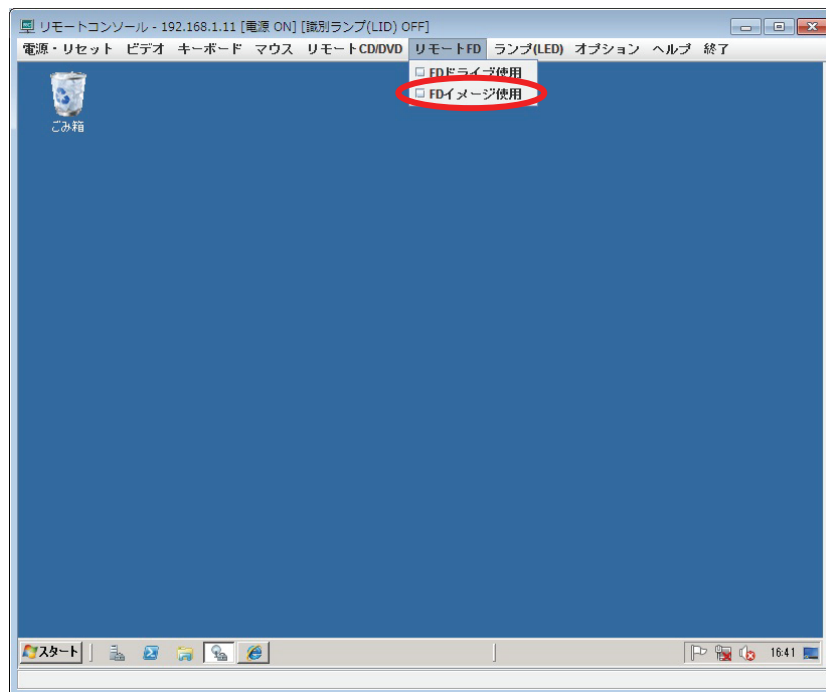
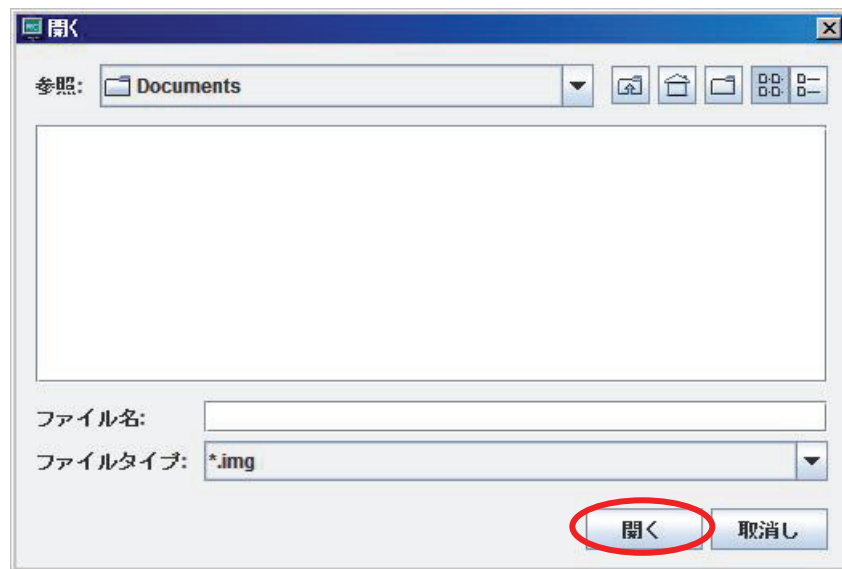
コンソール端末側で FD イメージ変換ツールを実行すると以下の画面が表示されます。
イメージを作成する FD をコンソール端末の FD ドライブに挿入し、該当するドライブを選択します。

次に［Browse］をクリックします。以下の画面が表示されるのでイメージ化されたファイルを保存する場所を選択し、ファイル名を入力します。ファイル名を入力した後、［保存］をクリックします。

保存する場所を決めたら［Start］をクリックします。［Start］をクリックするとFDのイメージ化が開始されます。

［Start］ボタンをクリックすると、以下の画面のように FD のイメージ化の進行状況が表示されます。進行状況が最後まで表示されると FD のイメージ化は終了です。指定した保存先にイメージファイルが作成されています。

FD のイメージ化が終了した後は、［Exit］をクリックし FDDUMP を終了してください。

FD のイメージファイルについての注意事項

以下の点に注意して、FD イメージファイルを使用してください。

・OS インストールメディア等、ライセンス契約があるメディアのイメージファイルは、メディアのライセンス契約に準じます。ライセンス契約に違反しないよう注意して使用してください。

・「FDDUMP.exe」で作成したイメージファイルは、リモートコンソールアプリケーションのリモート FD 機能でのみ使用することが可能です。他の目的で使用し問題が発生した場合、弊社は一切の責務および賠償責任を負いません。

FD イメージを使用する場合のリモートコンソールアプリケーションの操作方法は以下の通りです。

メニューの［リモート FD］-［FD イメージ使用］を選択します。

ファイル選択画面が表示されますので、イメージ化したファイルを選択し［開く］をクリックしてください。

コンソール端末の FD イメージがリモート FD としてシステム装置に接続されます。

リモート FD 機能を終了する場合は、再度メニューの［リモート FD］-［FD イメージ使用］を選択してください。

4.5 リモートCD/DVD使用方法

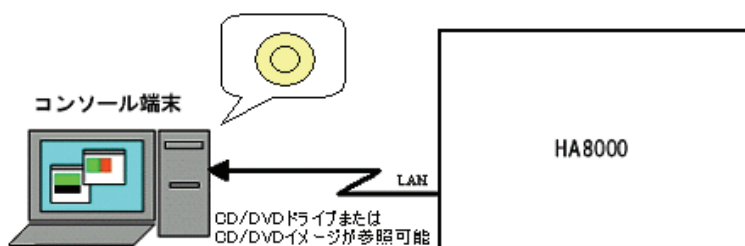
リモート CD/DVD 機能とは、システム装置からコンソール端末に搭載または接続されている CD/DVD ドライブまたは CD/DVD イメージを参照する機能です。ここではリモート CD/DVD の使用方法を説明します。

制限
1 台のシステム装置からは、1 台の CD/DVD ドライブまたは 1 つの CD/DVD イメージしか接続することができません。

制限
リモート CD/DVD は、サーバから USB デバイスとして認識されます。リモート CD/DVD 使用時、システム装置には 1 つの USB デバイスとしてリモート FD とリモート CD/DVD、リムーバブルディスクが搭載されます。リモート FD とリモート CD/DVD のいずれかの使用を開始するとサーバに USB デバイスが取り付けられ、両者の使用を終了するとサーバから USB デバイスが取り外されます。またリモート CD/DVD 使用時に追加されたリムーバブルディスクにアクセスするとディスクの挿入を要求される場合がありますが、使用することは出来ません。

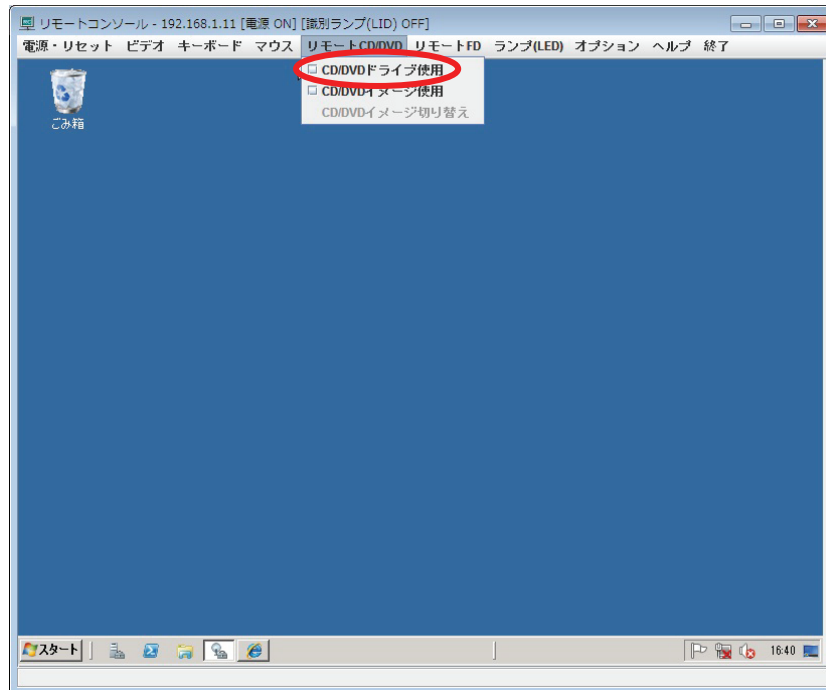
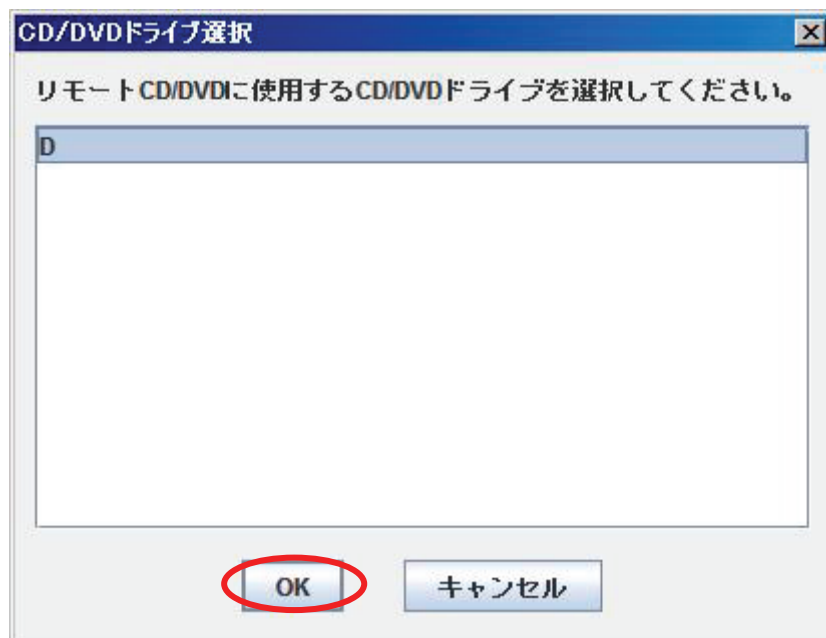
制限
リモート CD/DVD をご使用になる際は、レジストリの設定が必要になります。レジストリの設定後は、コンソール端末の再起動が必要です。
レジストリ設定の方法については、「2.2 章 動作環境・制限事項」の「リモート CD/DVD使用時のコンソール端末側の設定について」をご参照ください。

制限
リモート CD/DVD を使用しシステム装置を起動する場合、システム装置の BIOS セットアップメニューより、Boot デバイスの順番を先頭に設定してください。

補足
リモート CD/DVD でのインストール時などにメディアの交換を要求された場合、CD/DVD ドライブのアクセスランプなどで交換したメディアを読み込んだこと(Ready になったこと)を確認してから Enter キーなどを押してください。

リモート CD/DVD 機能に、コンソール端末に搭載または接続されている CD/DVD ドライブを使用する場合と、コンソール端末の CD/DVD イメージを使用する場合の使用方法を説明します。

コンソール端末の CD/DVD ドライブを使用する場合

リモート CD/DVD 機能でコンソール端末に搭載または接続されている CD/DVD ドライブを使用する場合の使用方法は以下の通りです。

メニューの［リモート CD/DVD］-［CD/DVD ドライブ使用］を選択します。

ドライブ選択画面が表示されますので、コンソール端末で使用している CD/DVD ドライブ選択して［OK］ボタンをクリックしてください。

コンソール端末に搭載または接続されている CD/DVD ドライブがリモート CD/DVD としてシステム装置に接続されます。メディアをドライブに挿入して使用してください。

リモート CD/DVD 機能を終了する場合は、再度メニューの［リモート CD/DVD］-［CD/DVD ドライブ使用］を選択してください。

CD/DVD イメージを使用する場合

リモート CD/DVD 機能でコンソール端末の CD/DVD イメージを使用する場合の使用方法は以下の通りです。

補足　イメージファイルを用いてリモート CD/DVD を使用している時に再度 CD/DVD イメージファイルの選択を行うと、メディアが入れ替えられた状態になります。

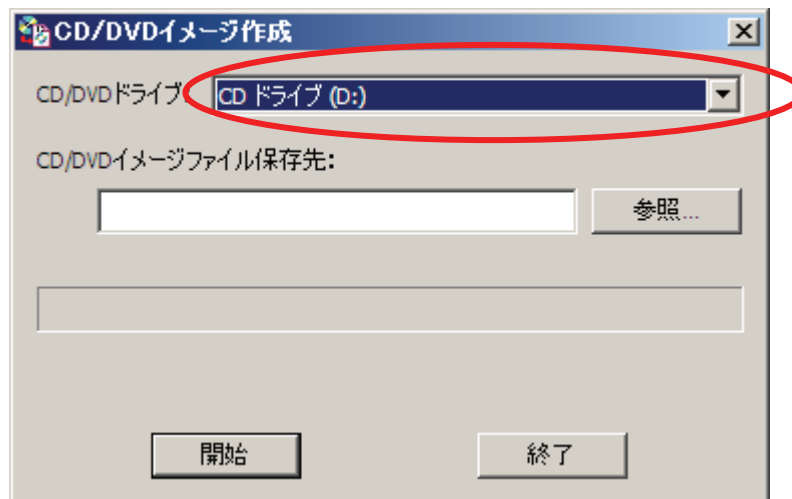
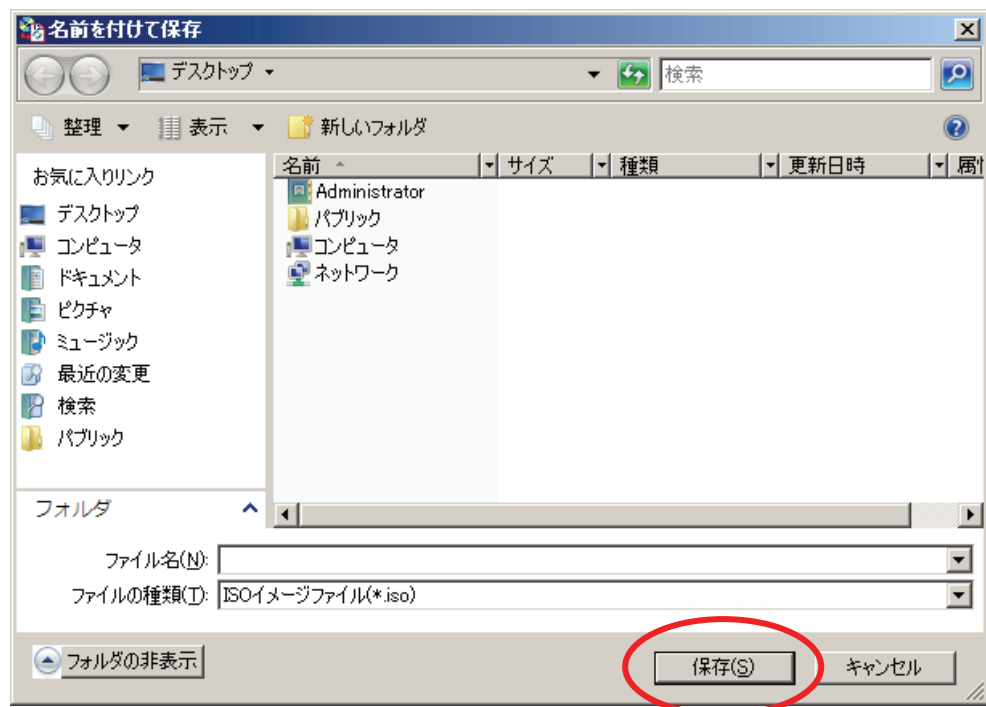
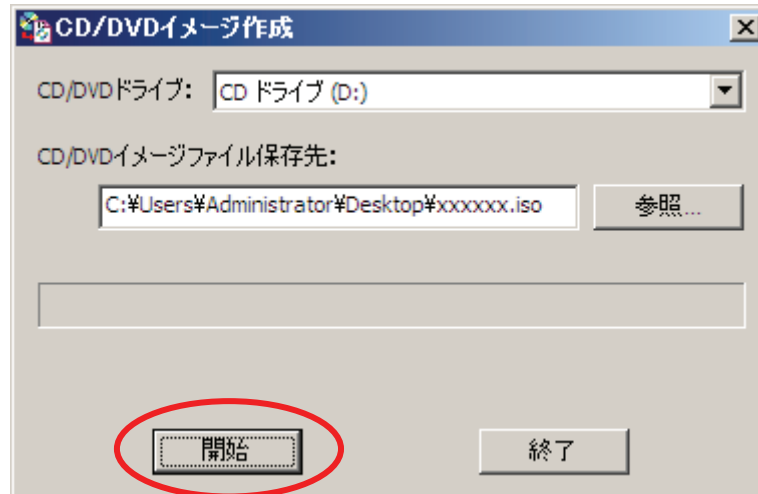
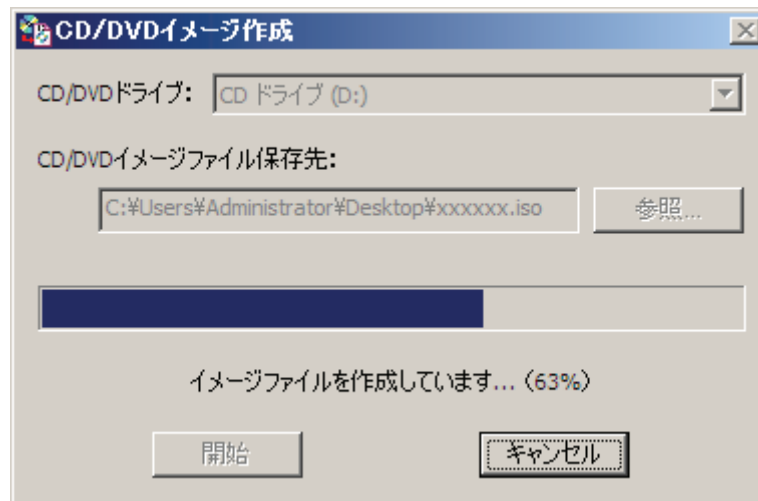
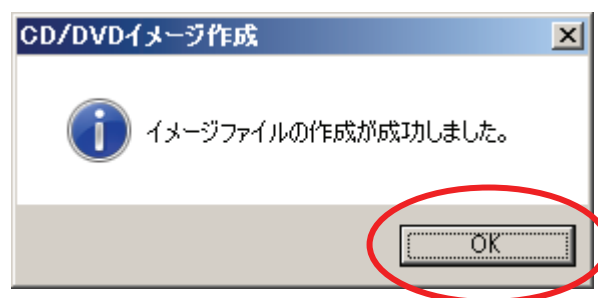
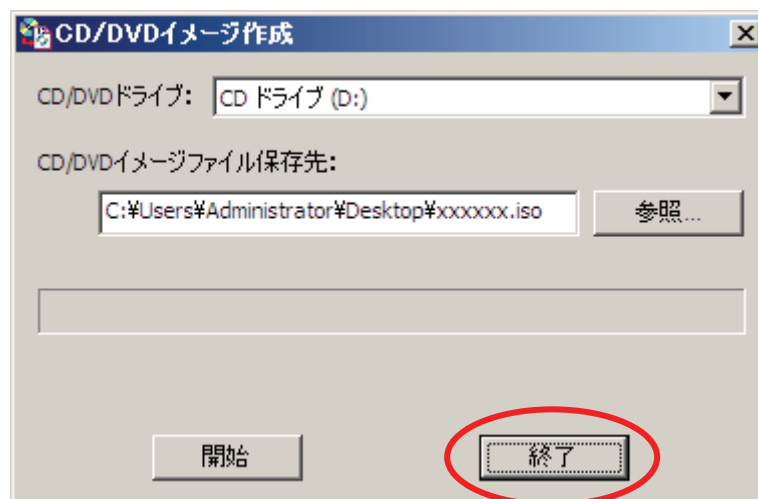
CD/DVD のイメージ化

リモート CD/DVD 機能でコンソール端末の CD/DVD イメージを使用する為には、事前に CD/DVD の内容をイメージ化する必要があります。
イメージファイルは、CD/DVD イメージ変換ツールにより作成してください。
CD/DVD イメージ変換ツール（MakeCDImg.exe）は、「リモートコンソールオプション マニュアル CD」の「Tool」フォルダに格納されています。

制限　イメージファイルは CD/DVD イメージ変換ツールで作成したファイルを使用してください。他のプログラムで作成したイメージファイルを選択した場合、正しく動作しない可能性があります。

補足　CD/DVD イメージ変換ツール（MakeCDImg.exe）はコンソール端末上に直接コピーして使用してください。インストールおよび設定等は不要です。

CD/DVD の内容をイメージ化する方法は以下の通りです。

コンソール端末側で CD/DVD イメージ変換ツールを実行すると以下の画面が表示されます。イメージを作成する CD/DVD をコンソール端末の CD/DVD ドライブに挿入し、該当するドライブを選択します。

次に［参照］をクリックします。以下の画面が表示されるのでイメージ化されたファイルを保存する場所を選択し、ファイル名を入力します。ファイル名を入力した後、［保存］をクリックします。

保存する場所を決めたら［開始］をクリックします。［開始］をクリックするとメディアチェックを行った後に、CD/DVD のイメージ化が開始されます。

［開始］をクリックすると、以下の画面のように CD/DVD のイメージ化の進行状況が表示されます。

以下のメッセージが表示されると CD/DVD のイメージ化は終了です。メッセージの［OK］をクリックしてください。指定した保存先にイメージファイルが作成されています。

CD/DVD イメージ化が終了した後は、［終了］をクリックし MakeCDImg.exe を終了してください。

イメージ化に使用する CD/DVD メディアについての注意事項

イメージファイル作成に使用する CD/DVD メディアは以下の条件を満たす必要があります。
・ISO9660 ファイルシステムでフォーマットしたメディアであること
・マルチセッションのメディアでないこと

上記の条件を満たしている場合でも、メディアに特殊なプロテクトがかかっている場合やメディアと CD/DVD ドライブの相性が悪い場合などはイメージファイルを作成することは出来ません。
特に、「ディスクアットワンス」方式以外の書込み方法で作成した CD/DVD は、イメージファイルの作成に失敗する場合があります。

イメージファイルが作成出来ない場合は、コンソール端末の CD/DVD ドライブを使用する方法でリモート CD/DVD 機能を使用してください。

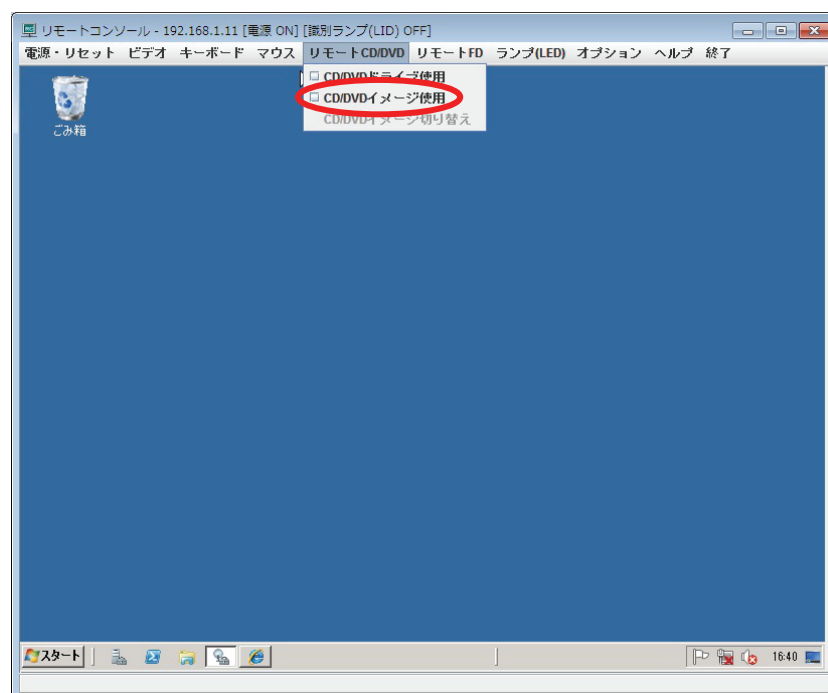
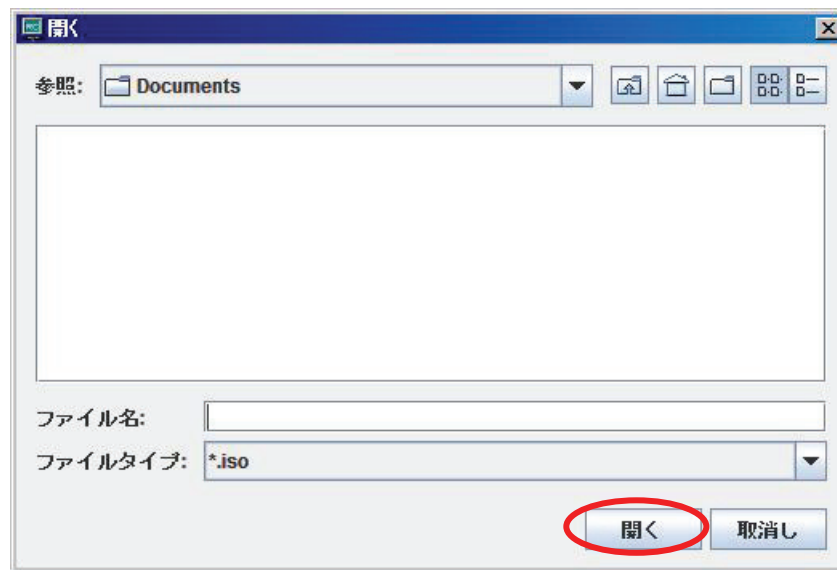
CD/DVD イメージファイルについての注意事項

以下の点に注意して、CD/DVD イメージファイルを使用してください。

(1) OS インストールメディア等、ライセンス契約があるメディアのイメージファイルは、メディアのライセンス契約に準じます。ライセンス契約に違反しないよう注意して使用してください。

(2) MakeCDImg で作成したイメージファイルは、リモートコンソールアプリケーションのリモート CD/DVD 機能でのみ使用することが可能です。他の目的で使用し問題が発生した場合、弊社は一切の責務および賠償責任を負いません。

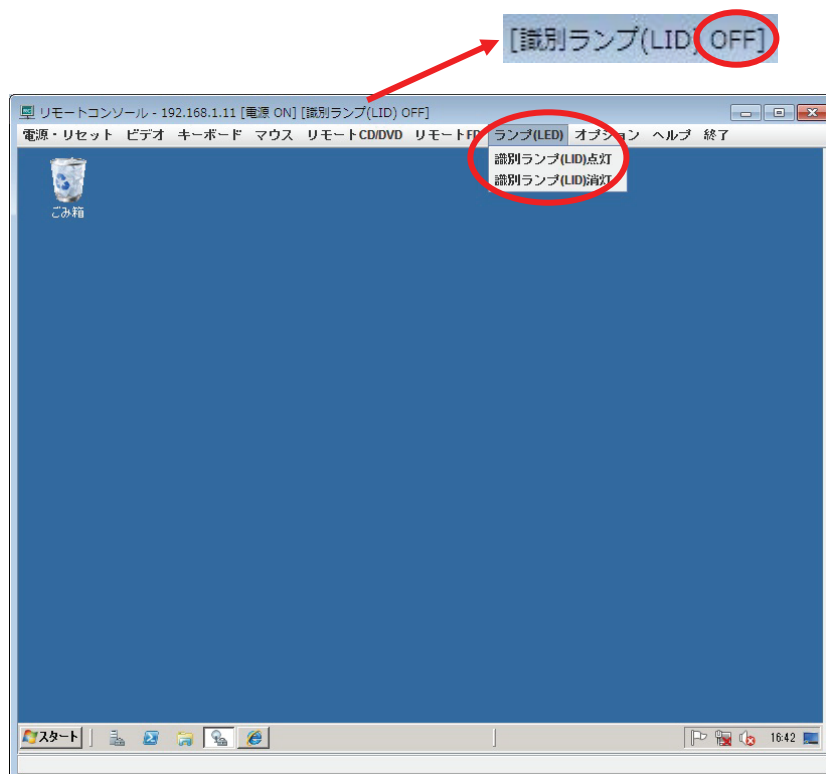
CD/DVD イメージを使用する場合のリモートコンソールアプリケーションの操作方法は以下の通りです。

メニューの［リモート CD/DVD］-［CD/DVD イメージ使用］を選択します。

ファイル選択画面が表示されますので、イメージ化したファイルを選択し［開く］をクリックしてください。

コンソール端末の CD/DVD イメージがリモート CD/DVD としてシステム装置に接続されます。

リモート CD/DVD 機能を終了する場合は、再度メニューの［リモート CD/DVD］-［CD/DVD イメージ使用］を選択してください。

4.6 システム装置識別ランプ操作方法

リモートコンソールを接続しているシステム装置の識別ランプ（SERVICE ランプスイッチ）を点灯することができます。
システム装置に識別ランプ（SERVICE ランプスイッチ）が無い場合は、本機能を使用できません。

システム装置識別ランプの現在の状態は、ツールバーのタイトル上で確認できます。
システム装置識別ランプの状態は、メニューの［ランプ（LED）］で設定します。

メニュー	ツールバー 状態表示	システム装置 識別ランプ
識別ランプ（LID）点灯	ON	点灯
識別ランプ（LID）消灯	OFF	消灯

制限 識別ランプ（SERVICE ランプスイッチ）は、リモートコンソールアプリケーション以外からも操作を行います。そのため、操作のタイミングによっては設定が反映されない場合があります。

補足 識別ランプ（SERVICE ランプスイッチ）を点灯、消灯するとシステム装置の SERVICE ランプスイッチを操作した場合と同様に SERVICE ランプスイッチの表示モードが切り替わります。

4.7 マウスモードの設定方法

リモートコンソールは以下の２つのマウスモードをサポートします。

モード	機能
ABSOLUTE モード	コンソール端末の OS が表示するマウスカーソルを用いてマウス操作を行うモードです。
RELATIVE モード	システム装置画面のマウスカーソルを用いてマウス操作を行うモードです。

マウスを正常に動作させるには、システム装置 OS の種類に応じたマウスモードを設定する必要があります。

システム装置 OS が Windows または RHEL6 の場合、ABSOLUTE モードに設定してください。
システム装置 OS が上記以外の場合、RELATIVE モードに設定してください。

マウスモードを RELATIVE モードで使用する場合は、コンソール端末のマウスを非表示にすることを推奨します。システム装置の OS により、コンソール端末とリモートコンソール画面のマウスカーソルの位置がずれる場合があります。

マウスモードの設定方法

マウスモードを変更する場合は、リモートコンソールを終了した状態で変更してください。リモートコンソールを起動した状態で設定の変更を行うとマウスの動作が不安定になる場合があります。

マウスモードの設定はシステム装置の Web コンソールより行います。マウスモードの設定変更を有効にするにはリモートコンソールアプリケーションを再起動する必要があります。
詳細はシステム装置のユーザーズガイド ～リモートマネジメント編～を参照してください。

4.8 画面表示範囲の変更方法

システム装置側画面の解像度をコンソール端末側のウィンドウサイズ以上に設定した場合は、コンソール端末側では画面の中のウィンドウサイズ分だけ表示されます。ウィンドウ右側および下側に表示されるスクロールバーの操作により、システム装置側画面の表示範囲を変更することができます。

5

ご注意

この章では、リモートコンソールをご使用いただく際に注意していただきたいことを説明します。

5.1 キーボード入力制限に関して

リモートコンソールは、コンソール端末からのキーボード入力をそのままシステム装置へ伝送する機能があります。但し、いくつかのキーに対して制限事項があります。リモートコンソールを運用するにあたり、制限キーを使用する場合はご注意下さい。下図に 109 キーボードに対する制限キーを示します。

キー	動作	対処方法
左[Alt]キー 右[Alt]キー	システム装置側にキー入力が伝わりません。	システム装置側への入力は、メニューまたはショートカットキーにより行うことができます。
左[Windows]キー 右[Windows]キー	システム装置側にキー入力が伝わりません。	システム装置側への入力は、メニューまたはショートカットキーにより行うことができます。
[英数]キー	システム装置側OSがLinuxの場合、[英数]キー押下後、[Shift]+[Caps Lock]キーが数秒毎に繰り返し入力される場合があります。	大文字/小文字の切り替えには[Shift]+[Caps Lock]キーを用いてください。 [Shift]+[Caps Lock]キーが繰り返し入力される現象は、もう一度[英数]キーを押下すると解消します。
[ろ]キー	かな入力時に、[ろ]キー押下で「ろ」「ロ」を入力することができません。	[Shift]+[ろ]キーにより「ろ」「ロ」を入力することができます。

5.2 ショートカットキー

コンソール端末の利便性を上げる為、以下のショートカットキーを設けています。
ショートカットキーは全て［Alt］キーとの組み合わせになります。

キー入力	内　容
[Alt]キー＋[Z]キー	左[Alt]キーを押下します。再度本ショートカットキーが使用されるまでキーが押されたままの状態になります。
[Alt]キー＋[M]キー	右[Alt]キーを押下します。再度本ショートカットキーが使用されるまでキーが押されたままの状態になります。
[Alt]キー＋[X]キー	左[Windows]キーを押下します。再度本ショートカットキーが使用されるまでキーが押されたままの状態になります。
[Alt]キー＋[N]キー	右[Windows]キーを押下します。再度本ショートカットキーが使用されるまでキーが押されたままの状態になります。
[Alt]キー＋[L]キー	[Ctrl]+[Alt]+[Del] キーを入力します。
[Alt]キー＋[R]キー	リモートスクリーンを再描画し、接続先システム装置の最新のビデオ画面を表示します。
[Alt]キー＋[G]キー	コンソール端末のマウスカーソルを非表示にします。マウスカーソルを再び表示させるには再度本ショートカットキーを使用してください。
[Alt]キー＋[W]キー	フルスクリーンモードとウィンドウ表示モードの切り替えを行います。
[Alt]キー＋[E]キー	リモートコンソールアプリケーションを終了します。

5.3 自動ログアウト

キーボードまたはマウス操作が15分間なされなかった場合、ユーザはリモートコンソールから自動的にログアウトし、リモートコンソールアプリケーションが終了されます。
自動ログアウト機能は、メニューの［オプション］-［自動ログアウト無効］によって無効にすることができます。

5.4 メッセージ一覧

リモートコンソール使用時のメッセージ内容と、対処方法は以下の通りです。

項	メッセージ内容	対処方法
1	処理を実行できません。	同じメッセージが繰り返し表示される場合はリモートコンソールを一旦終了し、再度接続してください。
2	処理を実行できません。 本プログラムを終了します。	動作環境の確認をしてください。
3	引数が不正です。再度実行してください。	リモートコンソールおよび Web コンソールを一旦終了し、再度接続してください。
4	リモートコンソールの動作環境が正しくありません。 本プログラムを再度ダウンロードしてください。	リモートコンソールを一旦終了し、動作環境を確認したのち、再度接続してください。
5	動作環境が正しくありません。動作環境を確認してください。	FD ドライブ選択ダイアログ、CD/DVD ドライブ選択ダイアログの作成時に問題が発生しています。動作環境の確認をしてください。
6	サーバ(xxx.xxx.xxx.xxx)への接続に失敗しました。 本プログラムを終了します。	動作環境および接続先 IP アドレスの確認をしてください。
7	サーバ（xxx.xxx.xxx.xxx）に接続できません。 IP アドレス、ポート番号を確認してください。	接続先 IP アドレスの確認をしてください。ポート番号の変更は不要です。
8	サーバ（xxx.xxx.xxx.xxx）に接続できません。	ログイン認証に問題があります。ユーザ ID およびパスワードの確認をしてください。
9	サーバ（xxx.xxx.xxx.xxx）では既にリモートコンソールが実行されています。	接続先サーバに他のリモートコンソールが接続されています。リモートコンソールは複数のコンソール端末からの接続はできません。
10	ユーザにリモートコンソールを使用する権限がありません。	ユーザにリモートコンソールを使用する権限がありません。Web コンソールからユーザ権限の確認をしてください。
11	ユーザの認証に失敗しました。	ログイン認証で問題が発生しています。ID およびパスワードの確認をしてください。
12	初期化に失敗しました。 本プログラムを再起動してください。	ログインダイアログの初期化で問題が発生しています。コンソール端末の Internet Explorer を再起動し、再接続してください。
13	IP アドレスを入力してください。	IP アドレスの入力に問題があります。入力内容の確認をしてください。
14	ユーザ ID を入力してください。	ユーザ ID の入力に問題があります。入力内容の確認をしてください。
15	ユーザ ID は 1 から 32 文字（バイト）で入力してください。	ユーザ ID の入力に問題があります。正しい文字数でユーザ ID を再度入力してください。
16	パスワードを入力してください。	パスワードが入力されていません。入力内容の確認をしてください。
17	パスワードは 1 から 32 文字（バイト）で入力してください。	パスワードの入力に問題があります。正しい文字数でパスワードを再度入力してください。
18	サーバ（xxx.xxx.xxx.xxx）との通信が切断されました。 本プログラムを終了します。	サーバとの通信が切断されました。再度接続してください。リモートコンソール起動時に表示された場合は、1 分待った後に再度接続してください。
19	サーバ（xxx.xxx.xxx.xxx）との接続がタイムアウトしました。 本プログラムを終了します。	一定時間サーバとの通信がなかったため、タイムアウトし接続が切断されました。再度ご使用になる場合は、再接続してください。
20	マウスモードの応答を受取れません。 しばらく経ってから再度実行してください。	マウスモードの応答に問題があります。しばらくしてから再度実行してください。

項	メッセージ内容	対処方法
21	マウスの初期化に失敗しました。一旦接続を切ってやり直してください。 問題が解決しない場合は、マウスモードを ABSOLUTE に変更して再度実行してください。	マウスの初期化に失敗しました。リモートコンソールを一旦終了し、再度接続してください。問題が解決しない場合は、マウスモードを ABSOLUTE に変更して再度実行してください。
22	ウィンドウが小さすぎます。 ウィンドウの大きさを変更してやり直してください。	ウィンドウが小さすぎます。ウィンドウの大きさを変更して再度実行してください。
23	ウィンドウの半分以上が隠れているため、マウスが正しく動作しません。 ウィンドウの位置と大きさを変更して再度実行してください。 ウィンドウ全体を表示することを推奨します。	ウィンドウの半分以上が隠れているため、マウスが正しく動作しません。ウィンドウの位置と大きさを変更して再度実行してください。ウィンドウ全体を表示することを推奨します。
24	エミュレーションを開始できません。	コンソール端末の FD ドライブ、CD/DVD ドライブが使用中でないことを確認し、再度実行してください。
25	リモート FD が切断されました。	リモート FD が切断されました。再度ご使用になる場合は、再接続してください。
26	リモート CD/DVD が切断されました。	リモート CD/DVD が切断されました。再度ご使用になる場合は、再接続してください。
27	デバイスがビジー状態です。 しばらくしてから再度実行してください。	しばらくしてから再度実行してください。
28	リモート CD/DVD（イメージファイル）が既に開始されています。	CD/DVD イメージ使用は既に実行中です。イメージが参照できない場合は、CD/DVD イメージ使用を一旦終了し再度実行してください。
29	リモート FD（イメージファイル）が既に開始されています。	リモート FD（イメージファイル）が既に開始されています。イメージが参照できない場合は、FD イメージ使用を一旦終了し再度実行してください。
30	リモート CD/DVD（物理ドライブ）が既に開始されています。	リモート CD/DVD ドライブは既に実行中です。ドライブが参照できない場合は、CD/DVD ドライブ使用を一旦終了し再度実行してください。
31	リモート FD（物理ドライブ）が既に開始されています。	リモート FD ドライブは既に実行中です。ドライブが参照できない場合は、FD ドライブ使用を一旦終了し再度実行してください。
32	使用できるドライブがありません。	使用できるドライブがあるか動作環境を確認してください。
33	サーバに接続できないため、リモート FD を開始できません。	動作環境および接続先 IP アドレスの確認をしてください。
34	サーバに接続できないため、リモート CD/DVD を開始できません。	動作環境および接続先 IP アドレスの確認をしてください。
35	リモート FD が使用できません。	動作環境および接続先 IP アドレスの確認をしてください。
36	リモート CD/DVD が使用できません。	動作環境および接続先 IP アドレスの確認をしてください。
37	ユーザにリモート FD を使用する権限がありません。	ユーザにリモート FD を使用する権限がありません。Web コンソールからユーザ権限の確認をしてください。
38	ユーザにリモート CD/DVD を使用する権限がありません。	ユーザにリモート CD/DVD を使用する権限がありません。Web コンソールからユーザ権限の確認をしてください。
39	セッションが不正なためリモート FD を使用できません。	通信が切断された可能性があります。動作環境を確認したのち、再度接続してください。
40	セッションが不正なためリモート CD/DVD を使用できません。	通信が切断された可能性があります。動作環境を確認したのち、再度接続してください。

項	メッセージ内容	対処方法
41	他のリモートコンソールがリモートFDを使用しています。	しばらくしてから再度実行してください。複数のサーバでリモートFDを同時に使用する場合は、FDメディアまたはFDイメージファイルを「読み取り専用」に設定する必要があります。
42	他のリモートコンソールがリモートCD/DVDを使用しています。	しばらくしてから再度実行してください。
43	FDドライブ（x）をオープンできないため、リモートFDを開始できません。	コンソール端末の(x)ドライブが使用可能であることを確認したのち、再度実行してください。複数のサーバでリモートFDを同時に使用する場合は、FDメディアを「読み取り専用」に設定する必要があります。
44	CD/DVDドライブ（x）をオープンできないため、リモートCD/DVDを開始できません。	コンソール端末の(x)ドライブが使用可能であることを確認したのち、再度実行してください。
45	イメージファイルをオープンできないため、リモートFDを開始できません。	選択したイメージファイルが存在しないなどの問題が発生しています。イメージファイルに問題が無いか確認してください。複数のサーバでリモートFDを同時に使用する場合は、FDイメージファイルを「読み取り専用」に設定する必要があります。
46	イメージファイルをオープンできないため、リモートCD/DVDを開始できません。	選択したイメージファイルが存在しないなどの問題が発生しています。イメージファイルに問題が無いか確認してください。
47	イメージファイルのオープンに失敗しました。	選択したイメージファイルが存在しないなどの問題が発生しています。イメージファイルに問題が無いか確認してください。
48	リモートFDは既に開始されているため、リモートFDを開始できません。	リモートFDは既に接続済みです。複数のリモートFDを同時に使用することはできません。実行中のリモートFDが無いか確認してください。
49	リモートCD/DVDは既に開始されているため、リモートCD/DVDを開始できません。	リモートCD/DVDは既に接続済みです。複数のリモートCD/DVDを同時に使用することはできません。実行中のリモートCD/DVDが無いか確認してください。
50	サーバから不正なデータを受信したため、リモートFDを終了しました。	動作環境を確認したのち、再度接続してください。
51	サーバから不正なデータを受信したため、リモートCD/DVDを終了しました。	動作環境を確認したのち、再度接続してください。
52	ショートカットキー一覧を表示できません。	ショートカットキー一覧表示時に問題が発生しました。同じメッセージが繰り返し表示される場合はリモートコンソールを一旦終了し、再度接続してください。
53	バージョン情報を表示できません。	バージョン情報表示時に問題が発生しました。同じメッセージが繰り返し表示される場合はリモートコンソールを一旦終了し、再度接続してください。
54	キーボード、マウス操作が一定時間なかったため、ログアウトしました。 ログアウト日時： xxxx.xx.xx xx:xx:xx 本プログラムを終了します。	キーボード、マウス操作が一定時間なかったため、ログアウトしました。自動ログアウトを無効にする場合は、メニューの「オプション」-「自動ログアウト無効」を有効にしてください。

Q&A

この章では、簡単なトラブルが発生した場合の対処方法を説明します。次の対処方法を行っても不具合が改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか保守員をお呼びください。

項	問題点	対処方法
1	ユーザ登録が行えない。	ユーザ ID、パスワードの設定は 32 文字以下である必要があります。
2	システム装置にログインできない。	LAN ケーブルの接続を確認してください。システム装置に設定されているユーザ ID、パスワードを確認してください。 ネットワークの設定（IP アドレス、サブネットマスク等）を確認してください。
3	リモートコンソールを使用したときのマウス動作、画面描写が遅い。	リモートコンソール使用時のマウス動作、描写速度は通常のサーバ画面での動作より遅くなります。サーバ画面の解像度を小さくしたりデスクトップ画面の背景（壁紙）を単色にすることで動作が改善される場合があります。また、極端に遅い場合や画面が乱れる場合はリフレッシュレートを確認ください。 画面の更新が遅い場合は、ツールバーの「再描画」ボタンを押すと画面が更新されます。
4	リモートコンソールから、キーボードまたはマウスの操作が行えない。	ツールバーの両［Alt］キー、両［Windows］キーが押された状態になっていないことを確認して下さい。ネットワーク環境（ファイアウォール等）を確認してください。一度リモートコンソールを終了し、再度リモートコンソールを起動して下さい。 上記により問題が解決しない場合は、「6.2 キーボードマウスの操作が接続できない場合の手順」を実行してください。
5	システム装置 OS が Windows の場合にマウスカーソルが表示されない。	システム装置 OS が Windows の場合、マウスモードを「ABSOLUTE モード」に設定する必要があります。マウスモードを変更する場合は、一度リモートコンソールを終了してから変更してください。 （「4.7 マウスモードの設定方法」を参照ください。）
6	システム装置 OS が Linux の場合にマウス動作がおかしい。	システム装置 OS が Linux の場合、マウスモードを「RELATIVE モード」に設定する必要があります。マウスモードを変更する場合は、一度リモートコンソールを終了してから変更してください。 （「4.7 マウスモードの設定方法」を参照ください。）
7	デバイスマネージャにて、HID マウスデバイス、または HID キーボードデバイスに！記号が表示される。	リモートコンソールを終了し、システムシャットダウンの後、システム装置の AC ケーブルを抜き、30 秒ほど待ってから AC ケーブルを差してシステム装置を起動してください。
8	コンソール端末から ［Caps Lock］がかけられない。	［Caps Lock］単体の Key 操作は無効となっています。 ［Shift］＋［Caps Lock］キーの操作は有効となります。
9	システム装置に接続できない。	システム装置に接続できない状態になった場合は、一度リモートコンソールを終了し、再度接続を試みてください。再接続ができない場合は、「6.1 リモートコンソールに接続できない場合の手順」を実行してください。コンソール端末からの接続が制限されていないことを確認してください。 （「3.2 リモートコンソール設定」を参照してください。）
10	アプリケーションのバージョンを確認したい。	「6.3 アプリケーションのバージョン確認方法」の手順で確認してください。
11	システム装置側画面の一部しか表示されない。	システム装置側画面の表示解像度がコンソール端末側のウィンドウサイズ以上に設定した、画面の一部しか表示されません。ウィンドウの右側、下側のスクロールバーを操作することにより、画面の表示範囲を変更できます。 （「4.8 画面表示範囲の変更方法」を参照ください。）

項	問題点	対処方法
12	Linux で解像度、色数の切り替えが正しく行われない。	Linux の GUI の「システム→管理→ディスプレイ」および「システム→設定→解像度の設定」により設定を行うと、解像度、色数の設定が正常に反映されなかったり、解像度変更後に画面が乱れたりする場合があります。 Linux での解像度、色数の設定は/etc/X11/xorg.conf を編集することにより行ってください。また、表示解像度は 1024×768 を推奨いたします。 （「4.3 サーバディスプレイ設定方法」の「Linuxのディスプレイ設定方法」を参照ください。）
13	Linux で 800×600 までの解像度しか設定できない。	vesa ドライバを使用する場合、解像度は 800×600 までしか設定できない場合があります。それ以上の解像度にする場合は mga ドライバを使用してください。 （「4.3 サーバディスプレイ設定方法」の「Linuxのディスプレイ設定方法」を参照ください。）
14	Windows で色数を［高（24 ビット）］とすると画面表示が行われない。	1024×768 以下の解像度の場合、使用可能な色数は［中（16 ビット）］および［最高（32 ビット）］となります。1024×768 より大きい解像度の場合、［中（16 ビット）］のみのサポートとなります。上記の色数をお使いください。
15	リモート FD 機能で FD ドライブを選択できない。	コンソール端末で FD ドライブを開いているアプリケーションがある場合、リモート FD を開始できません。FD ドライブを使用しているアプリケーションを終了してください。
16	FD イメージファイルを複数のサーバで共有できない。	FD イメージファイルを複数のサーバで同時に使用するには、FD イメージファイルを「読み取り専用」に設定する必要があります。
17	Linux 使用時に、リモート FD への書き込みが FD メディア/FD イメージファイルに即座に反映されない。	書き込んだ内容が FD メディア/FD イメージファイルに反映されるまで時間がかかる場合があります。 リモート FD をアンマウントするか、「sync」コマンドを実行することにより内容を反映させることができます。
18	リモート FD、リモート CD/DVD の接続が切れ、使用不可能となる。	「6.4 リモートFD、リモートCD/DVDが使用できない場合の復旧方法」に記載の手順を実行してください。
19	リモート FD、リモート CD/DVD を開始できない。	リモートコンソールアプリケーションは、リモート FD、リモート CD/DVD のためにそれぞれシステム装置の 4995、4997 番ポートと通信します。ご使用の LAN 環境でこれらのポートを使用した通信が可能になっている必要があります。
20	OS インストールにおけるインストールメディアの入れ替え時に入れ替え後のメディアが認識されない場合がある。	メディアの入れ替え後すぐにインストールを続行すると、メディアが OS インストーラに認識されない場合があります。 物理ドライブを使用する場合はメディアの入れ替え後、物理ドライブが Ready 状態になった後にインストールを続行してください。イメージファイルを使用する場合は、入れ替え後、5 秒ほど待ってからインストールを続行してください。
21	Internet Explorer8 を使用時に、リモートコンソールのログイン画面が 2 つ起動する場合がある。	Internet Explorer8 の不具合が原因である可能性があります。 以下を参照し、回避策を実行してください。 http://support.microsoft.com/kb/973082/ja
22	リモートコンソールの画面が表示されない、または一部しか表示されない。	ネットワークの負荷の状況により転送する画像データ量が調整され、画面の一部または全部が表示されない場合があります。画面が表示されない場合はリモートコンソールメニューの［再描画］を実行してください。
23	コンソール端末の OS が 64bit の OS の場合に、リモートコンソール起動時に Java のエラーが表示されリモートコンソールが実行できない。	コンソール端末で使用する Internet Explorer および Java Runtime Environment は 64bit 版が未サポートとなります。 コンソール端末の OS として 64bit の OS をご使用の場合でも、Internet Explorer および Java Runtime Environment は 32bit 版を使用してください。

6.1 リモートコンソールに接続できない場合の手順

リモートコンソールに接続できない状態になった場合、手順 1 にて再度接続を実施してください。手順 1 で接続を復帰できない場合は手順 2 を実施してください。

手順 1

(1)リモートコンソールメニューの［終了］-［終了］を選択し、リモートコンソールアプリケーションを終了します。
(2)コマンドプロンプトより Ping コマンドでネットワークの疎通を確認してください。
(3)30 秒ほど待ってからリモートコンソールアプリケーションを再度起動します。
「4 章 使用方法」をご参照ください。

手順 2

(1)リモートコンソールメニューの［終了］-［終了］を選択し、リモートコンソールアプリケーションを終了します。
(2)システム装置をシャットダウンしてシステム装置の AC ケーブルを抜きます。
(3)30 秒ほど待ってから AC ケーブルを差してシステム装置を起動します。
(4)リモートコンソールアプリケーションを再度起動します。
「4 章 使用方法」をご参照ください。

6.2 キーボードマウスの操作ができない場合の手順

リモート KVM によるシステム装置側キーボードマウスの操作ができない状態になった場合、一度リモートコンソールを終了し再度起動して下さい。再接続により問題が解決しない場合は手順 1 を実施してください。手順 1 で問題が解決しない場合は手順 2 を実施してください。

手順 1

(1)コンソール端末上でキーボード・マウス操作が可能であることを確認します。
(2)リモートコンソールメニューの［終了］-［終了］を選択し、リモートコンソールアプリケーションを終了します。
(3)Webコンソールでマウスのモードを現在の設定と異なる設定に変更した後、リモートコンソールを起動します。
「4.7 マウスモードの設定方法」をご参照ください。
(4)リモートコンソールメニューの［終了］-［終了］を選択し、リモートコンソールアプリケーションを再度終了します。
(5)Webコンソールでマウスのモードを元の設定に戻し、リモートコンソールアプリケーションを再度起動します。
「4 章 使用方法」をご参照ください。

手順 2

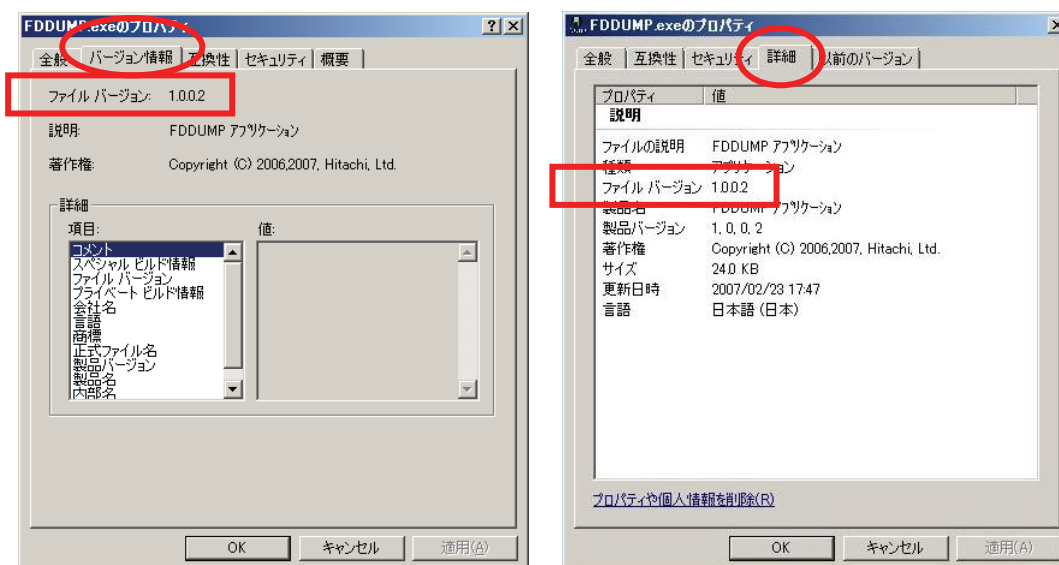
(1)リモートコンソールメニューの［終了］-［終了］を選択し、リモートコンソールアプリケーションを終了します。
(2)システム装置をシャットダウンしてシステム装置の AC ケーブルを抜きます。
(3)30 秒ほど待ってから AC ケーブルを差してシステム装置を起動します。
(4)リモートコンソールアプリケーションを再度起動します。
「4 章 使用方法」をご参照ください。

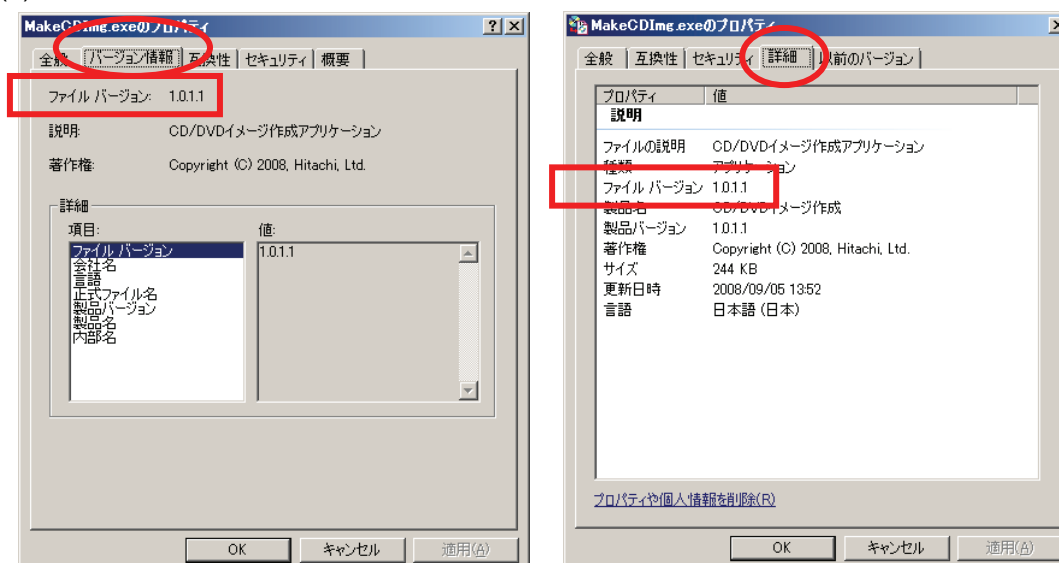
6.3 アプリケーションのバージョン確認方法

ここでは、アプリケーションのバージョンを確認する方法について説明します。

FD イメージ変換ツール（FDDUMP.exe）、CD/DVD イメージ変換ツール(MakeCDImg.exe)のバージョン確認は、以下の手順で実施してください。

（1）FD イメージ変換ツール（FDDUMP.exe）のバージョン確認

(1)コンソール端末の OS が Windows Server 2003、Windows XP の場合「FDDUMP.exe」のプロパティの［バージョン情報］タブを、それ以外の OS の場合、プロパティの［詳細］を、選択します。
(2)各タブに表示されている「ファイルバージョン」を確認してください。

（2）CD/DVD イメージ変換ツール（MakeCDImg.exe）のバージョン確認

(1)コンソール端末の OS が Windows Server 2003、Windows XP の場合「MakeCDImg.exe」のプロパティの［バージョン情報］タブを、それ以外の OS の場合、プロパティの［詳細］を、選択します。
(2)各タブに表示されている「ファイルバージョン」を確認してください。

6.4 リモートFD、リモートCD/DVDが使用できない場合の復旧方法

リモートFD、リモートCD/DVD がシステム装置のBIOSやOS に認識されない場合、あるいはリモートFD、リモートCD/DVD の接続が切れ使用できなくなった場合は、以下の手順を実行してください。

手順1（ネットワーク確認）

ネットワーク障害により、コンソール端末とシステム装置の間のTCP 接続が維持できない場合、リモートFD、リモートCD/DVD が切断されたり使用不可となったりする場合があります。
ネットワーク障害の有無を確認してください。ネットワーク障害でない場合、手順2 を実行してください。

手順2（リモートFD、リモートCD/DVD 再接続）

(1)リモートコンソールメニューからリモートFD、リモートCD/DVDを終了させせます。
(2)1分間待った後、リモートコンソールメニューからリモートFD、リモートCD/DVDを再度開始します。手順2 により回復しない場合、手順3 を実行してください。
「4章 使用方法」をご参照ください。

手順3（システム装置 電源OFF/ON）

(1)システム装置のOS シャットダウン操作により、電源をOFFします。OS が起動していない場合は、リモートコンソールメニューの［電源・リセット］-［強制電源オフ］を選択し、システム装置の電源をOFFにしてください。
(2)メニューの［終了］-［終了］を選択しリモートコンソールアプリケーションを終了します。リモートコンソールアプリケーションを再度起動し、システム装置に接続します。
(3)リモートコンソールメニューからリモートFD、リモートCD/DVDをを再度開始します。
(4)リモートコンソールメニューの［電源・リセット］-［電源オン］を選択し、システム装置の電源をON にします。

手順1～3 を実施しても問題が解消されない場合は、お買い求め先か保守員にご連絡ください。

リモートコンソールオプション

取扱説明書

第 2 版　　2012 年 11 月

株式会社　日立製作所

ＩＴプラットフォーム事業本部

〒259-1392 神奈川県秦野市堀山下 1 番地

http://www.hitachi.co.jp